

2024-2025



SOCIAL ACTION REPORT

ソーシャルアクション報告書 2024-2025



2025年6月30日発行

発行元 認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン



メッセージ

2024年4月から2025年3月の間に、人や地球のことを想い、実際に行動を起こし、活動の様子をご報告くださった25歳以下のチェンジメーカーの皆さん、本当にありがとうございます。

皆さんから届いたたくさんのアクションレポートからは、一人ひとりが自分らしい方法で、創意工夫をこらしながら社会課題と向き合っている様子が伝わってきました。どの取り組みも学びにあふれ、「そうか、こんな視点もあるんだ」と新たな気づきをたくさんもらいました。

レポートを通じて、今年特に多くの人に関心を寄せていたテーマにも触れることができました。最もキーワードとして多く報告されたのは「ゴミ」に関するアクション。増え続けるプラスチックゴミをはじめ、ごみの問題は世界中に共通する課題です。続いて多かったキーワードは「食」に関する取り組み。これは貧困の問題にも直結し、人間誰にとっても切実なテーマです。そして「人権・権利」にも多くの声が寄せられていました。見えにくいこのテーマに向き合おうとする姿勢に、大きな希望を感じました。次に多かったキーワードは、環境や教育でした。このほかにも、災害、障害、格差、差別、いじめ、戦争・紛争、水など、ここすべてのキーワードをあげ切れていませんが、本当にさまざまな課題に対して声を上げ、行動を起こしてくれた皆さんに、心から敬意を表します。

また、皆さんから寄せられたメッセージにも、たくさんの勇気をもらいました。

「何か始めたいけれど、何から手をつけたらいいのかわからない」「思い切って始めてみたけれど、うまくいかない」——そんな思いや迷いを抱えている方もいるかもしれません。そんなときは、チェンジメーカーの仲間たちからのメッセージをぜひ読んでみてください。きっと、次の一歩につながるヒントや励ましの言葉に出会えるはずです。ともに、地球に住む仲間として、皆さんと繋がって私自身もより良い世界に向けた一歩を歩んでいきたいと思えます。Together, we can change the world!

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 代表
中島早苗

ソーシャルアクションレポートとは

“Gift（才能） + Issue（解決したい問題） = Change（変化）”

--好きなこと・得意なことを活かして、自分にできるアクションを考える--

を駆使して取り組んできた1年間の記録です。

今回のレポートでは、**ボランティア・資金調達・啓発活動・政策提言・物資調達・自己行動変革**の6つのカテゴリーをベースにご紹介します。

もくじ

- ✓アクションインパクト … 3
- ✓ソーシャルアクションレポートを提出しよう … 3
- ✓チェンジメーカー・フェス2025 … 4

✓みんなのアクション！

自己行動変革 … 6	資金調達 … 35
ボランティア … 17	物資調達 … 45
政策提言 … 32	啓発活動 … 50
	その他 … 73

- ✓アクションキットのご紹介 … 76

アクションインパクト

みんなのアクション！全合計数値



レポート形式での報告アクションの合計数値



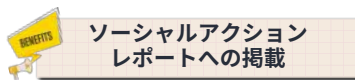
レポートを提出しよう！

あなたもソーシャルアクションレポートを提出しませんか？

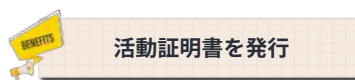
他の人にも活動を知ってもらうことで、活動が大きくなったり、
他のアクションを起こすことを考えている人たちの手助けになります！

アクション報告（ソーシャルアクションレポート）で皆さんのアクションを教えてください！

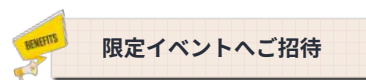
アクション報告の特典



25歳以下の方から届くアクションの報告を、ウェブページで紹介したり、1年毎にレポートにまとめ発行中！



ご報告頂いたアクションを、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが確認、認定し、希望者には活動証明書の発行が可能です！



アクションを起こし・報告した人しか参加できないChange Makers Fesの限定イベントに参加する資格を得ることができます！

報告方法

以下のページのフォームから報告を送信できます。



<https://ftcj.org/we-movement/westory>





ソーシャルアクションレポートを提出すると参加できる無料のイベント！ チェンジメーカー・フェス！

チェンジメーカー・フェスは、地域で行なうボランティアをはじめ、環境活動や国際協力など、SDGs達成につながる社会貢献活動をした25歳以下の子ども・若者だけが参加できる無料のライブイベントです。

チケットの販売はしておらず、参加するための唯一の方法が、国内外の社会問題に対してアクションを起こし報告すること！

4回目となる2024年は「Take Action for Peace ～平和をつくる私のアクション～」をテーマに、約600人が一堂に集まりました。今回メインアーティストに就任したアーティストのAIさん。イベントの最後には、AIさんが取り組まれている平和教育プロジェクトのために書き下ろした「Lasting Peace Song」を、平和を願いアクションを起こす400人の25歳以下のチェンジメーカーとAIさん、大合唱しました！

チェンジメーカーのスピーチやLasting Peace Songの動画を公開していますので、ぜひご覧下さい。次はあなたも！



Change Makers Fes 2024 ～世界を変えるキミに、この日を。～

日程：2025年10月23日（水）18:00～20:00

会場：Zepp Haneda (TOKYO)

イベント
ダイジェスト映像



Lasting Peace Song
パフォーマンス映像



開催レポート



●主催 認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

●協賛 C-United株式会社（珈琲館／カフェ・ド・クリエ／カフェ・ベローチェ）、株式会社パワープロジェクト

●助成 大東建託グループみらい基金、子どもゆめ基金

●後援 大田区教育委員会、独立行政法人国際協力機構（JICA）、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）、東京ボランティア・市民活動センター（TVAC）、特定非営利活動法人日本NPOセンター（JNPOC）

●協力 LASTING PEACE PROJECT、株式会社フロンティア・インターナショナル、株式会社テアトルアカデミー、TOMOSUBA TOKYO、広げよう！子どもの権利条約キャンペーン、おたっ子条例を考える会、一般社団法人ガールスカウト東京都連盟
歌唱指導：磯野 万里衣、蔵本 順

C-United株式会社は、珈琲館、カフェ・ド・クリエ、カフェ・ベローチェなどを中心に、様々なスタイルのカフェブランドを運営。C-United全体で、8ブランド約560店舗を全国で展開中。サステナブルなアクションや「気候変動問題」「雇用とSDGs」、DE&Iなどに取り組んでいます。Change Makers Fes 2024にご協賛いただきました。

▼C-Unitedが展開しているカフェブランド



1 フードロス問題

全国のカフェでコーヒーや食事を提供するC-Unitedでは、賞味期限が近いサンドイッチに割引シールを貼ることでフードロスの削減に取り組んでいます。その他、ストローの素材変更や、ストローをご希望のお客様には、ご自身で付属品コーナーよりお取りいただく方法に変更することで、プラスチック使用量削減に繋がったり、省エネ型の照明器具導入による消費電力の削減を行うなど、様々な取り組みをしています。

2 気候変動問題

C-Unitedでは「気候変動問題」にも取り組んでいます。なぜなら今、気候変動によってコーヒー豆の栽培に適した土地が半減してしまう恐れがあるなど、深刻な問題だからです。

シャキッソ村での山火事

地球温暖化や気候変動によって森林火災の発生件数は増加傾向にあり、環境破壊が進んでいます。例えば、高品質な豆の産地として有名なエチオピアのシャキッソ村。ここでは、2000年から2004年の4年間にわたって、大規模な山火事がありました。

シャキッソ村での取り組み -森と人の共存を目指して-

シャキッソ村で、山火事により消失したエリアの地域復興のため、コーヒー生産を通じた地域住民の「雇用」に取り組んでいます。雇用は、地域住民の生活と仕事を安定させるためにとても大切なことです。生活レベルが向上し、地域復興を加速することができ、経済成長と平和にも繋がります。また、コーヒー栽培によって、その地域の森林の生態系が保護され、森と人の共存関係も実現できます。



↑コーヒー農園スタッフ↓



珈琲館での取り組み

『珈琲館』では、サステナブルな取り組みを行う農園から珈琲を取り寄せ、厳選した一杯を1年に3～4回期間限定で販売し、私たち消費者に提供することで、持続可能なビジネスモデルを確立しています。

私たち消費者は、このような企業の取り組みによって、一杯の持続可能なコーヒーを通じて、コーヒー生産者の生活を支援し、環境にも優しい選択をすることができますようになります。



3 「誰も取り残されない」平和な社会へ

C-Unitedでは、障がい者の方々が個性を活かし働く「焙煎所」を、東京・港区本社に2024年3月にオープン。

焙煎所で焙煎した特別なコーヒー「珈琲館 銀座ブレンド」を開発。そして、この新商品を店舗で販売する『焙煎プロジェクト』を開始！障がい者の方々の就業機会を増やすだけでなく、「雇用の質」を上げる働きを実現したいと考えています。



障がい者の方々（CUクルー）が珈琲生豆の配合から焙煎・梱包・配送までを行なう焙煎所



CUクルーが焙煎した珈琲「珈琲館 銀座ブレンド」

自己行動変革

生活習慣を変えたり、探究活動、講座やイベントへ参加するなど
社会課題を解決して、よりよい社会を実現するために
自分の行動や考え方を変えたり、意識を変えるための行動をすること



アクション実施者

- 人数 1
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 静岡県



取り組んだアクション

実施内容

子どもたちの子どもの権利委員会の審査フォローアップに対する関わり方についてのオンライン学習イベントに参加した。全て英語で行われるため事前に国連子どもの権利委員会や総括所見について学習した。イベントではフィリピン・カンボジア・ネパールで活動している子ども達の話聞き、子ども達による子どもの権利委員会への報告やフォローアップの行い方について学んだ。

- 社会課題 子どもの権利問題

- 支援先

- 実施期間 2023年5月1日～6月3日

- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	10 時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

イベントが全て英語で行われるため、講義をスムーズに視聴することが出来るよう事前に国連子どもの権利委員会や総括所見について学習した。イベントに参加し、子ども達による子どもの権利委員会への報告やフォローアップの行い方について学習したことでこれからどのようなことをするべきか具体的な方法が分かりとても参考になった。



困難だったこと/次回に活かすこと

オンラインの学習イベントでチャットを使って質問をすることが出来る仕組みになっていたが、あまり質問などをすることができなかったので次回からは質問などをたくさんしてもっと講義に参加していきたい。学習会はイベント当日も大切だが事前に下調べをしておくことが大切だと思った。



これからアクションを起こす人へメッセージ

全ての子どもは子どもの権利を持っていて、子どもには「アクションを起こす権利」があります。子どもの権利を学び子どもにはアクションを起こす権利があると知った子ども達が前例となりアクションを起こしていくことによってみんなでアクションを起こすことを当たり前と捉える世の中になるように活動していきましょう。



アクション実施者

- 人数 1
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 東京都



取り組んだアクション

実施内容

子どもの権利を守るための法制度について興味があり、様々な大学の講座や日弁連等が主催するイベントに参加するなどして探求活動を行った。さらに、子どもの権利を守る活動をしている弁護士の方々にお話を伺いに行き、関連する法律や問題点について学んだ。また、自分の住んでいる自治体の「子どもの権利条例制定に向けたプロジェクト」に参加し、これらの探求活動の成果を論文にまとめた。

- 社会課題 子どもの権利擁護
- 支援先
- 実施期間 2024年4月21日～2025年3月20日
- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

探求活動を進める上で、他の自治体の勉強会に参加したり、子ども相談室を見学させて頂いたりして、子どもの権利に関する様々な取り組みについて学んだ。また、実際に子供の権利を守る活動をしている方々にインタビューすることで、現場の声を聞いて実情に対する理解を深めた。



困難だったこと/次回に活かすこと

自治体のプロジェクトでは、参加していた子ども達の年齢に幅があったので、自分と年齢の離れている年下の子達にどのように接し、意見をまとめるべきか最初はよく分からず難しく感じたが、年齢が下の子でも萎縮せずに意見を言えるような和やかな雰囲気作りを心がけた。また論文をまとめる課程においては、子どもの権利に関する海外の事例や過去の日本の事例について、適切な資料を見つけることが難しかった。



これからアクションを起こす人へメッセージ

何か自分でも始めてみたいけど自分の興味のあるテーマが見つからないという人は、まず分野を問わず様々なイベントに参加してみることをおすすめします。その中で、自分がやってみたいと思えることや探求したいことが見つかると思います。



アクション実施者

- 人数 1
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 栃木県



取り組んだアクション

実施内容

途上国の衛生問題の原因として挙げられている、下水処理の不足による水質汚染の問題を改善するために、下水処理中の微生物中の研究を行った。中学1年生のときからの継続研究であり、今年度は、東京大学大学院の教授のお力添えをいただきながら研究を行った。本研究では、下水処理不安定になってしまう際に発生する、糸状の微生物の正体を掴むために、ゲノム解析なども行い、研究を進めた。

■ 社会課題 衛生問題、水処理問題

■ 支援先

■ 実施期間 2024年3月25日～11月23日

■ 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

扱う微生物は、日々の測定が重要であるのに対し、家が大学から離れていたため、自宅で簡易的な設備を作成して、学校にて飼育を行ったこと。専門の器具を使うことができれば、簡単に安定したであろう部分も、ペットボトルやデジタルタイマーなどの簡易的な装置を使用しての研究では安定するまでに時間を要した。そのため、2度実験に失敗してしまったが、次こそはと、3度目の研究を行っている。



困難だったこと/次回に活かすこと

大学教授が近くにいない環境での初めての研究だったため、不具合が起こったときに自分で原因を突き止めて解決しなければならなかったこと。予想していなかった部分の不具合では、原因を突き止めるために、様々な項目の測定を行い、時間がかかってしまったこと。また、私自身が理科で生物選択していないにも関わらず、研究の分野が生物だったことで、理解に多少の時間を要してしまったこと。



これからアクションを起こす人へメッセージ

周りから「無理だろう」と言われてしまうような大きな夢や目標でも、最終的にそこにたどり着くための道はたくさんあると思います。もし、それを実現している人や、自分がすごいな、と憧れる人がいたら、その人が現在行っている活動に加えて、過去にどのようなプロセスで活動をおこなってきたのかを聞いてみてください!自分のアクションに対するイメージが湧きやすくなってくると思います!



武田光平



アクション実施者

- 人数 1
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 東京都



取り組んだアクション

実施内容

人々、特に青少年の内発的動機がどのような作用によって形成され、醸成させるのかを社会関係資本や文化資本、コミュニティ帰属意識といった視点から紐解いていく研究を行った。ヒアリングや文献を用いて研究を今後も進めていく予定。そして現状に対してどのようなアプローチやアクションがを行えるかの考察を行っており、少しずつ実践に移している。

- 社会課題 社会格差解消

- 支援先

- 実施期間 2024年 7月 1日

- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

ただ単に教育学的な用法に注目するのではなく、社会学という通常とは異なる視点から同じ考えや言葉を見る事によって、全く違う道が開ける。そして研究に対する助成やヒアリング協力の話もでてきており、少しずつではあるが自分の考えを実践に移せる環境が整ってきていると思う。



困難だったこと/次回に活かすこと

ヒアリング内容をどのようにすれば効果的かつ回答を強制しない形で行えるかを考えるのが難しかった。そして特に研究では構想しているものや言葉の言い換えを行う必要があり、どのように自分が思っている感情や考えを言語化するのかというプロセスに苦戦をしている。



これからアクションを起こす人へメッセージ

自分が思っていることが周りになかなか伝わらなかったり、周りの人を羨んでしまうことがあるかと思います。けれども自分で思いついたりやってみたいと思う気持ちが生まれた事には必ず価値があり、一種の責任があるものなのではないかと思います。だから気負わずともアクションを実行していきましょう！

小学生



- ・ゴスペルチャリティーコンサートに参加した



- ・介護問題、特に認知症について学習した
- ・盲導犬のイベントに参加して、障害者の気持ちを学びました。
- ・救命講習に参加している。
- ・目が見えないお母さんがいる友達がいることから、障害者マークについて調べました。マークを知ることによって、町中のマークがよく目につくようになりました。ある日バスに乗っている時に、ハートプラスマークのタグをつけている人に出会いました。ハートプラスマークは外見からわかりにくい体の内部に障害がある方が、周りに助けや配慮を必要と知らせるマークと知っていたので、席をゆずり、感謝されました。マークのことを知らなかったら、できなかったことなので、知っていてよかったなと思ったり、今後自分が役に立てることがあれば、行動していこうと思いました。



- ・お風呂の時水を出しっぱなしにしない。



- ・電気をこまめに消しています
- ・ママに言われて、使わない部屋の電気はなるべく消すようにしています。夏暑かったけど、クーラーの設定温度も28℃で扇風機と一緒に使ってなるべく無駄なエネルギーを使わないようにしました。



- ・フェアトレード商品を購入した。その国の人が僕が買ったことで少しでも助けになればいいな。



- ・街をきれいにするためのゴミ拾いと、困っている人たちのために募金活動に参加しました。
- ・地域のゴミを減らし、きれいにする為、子ども会が主催する資源回収や公園掃除に積極的に参加している。
- ・地域のお祭りボランティアに参加する。防災グッズを準備する。
- ・手話を勉強しています。
- ・お友達と耳が聞こえない人も楽しめるよう歌いながら手話をできるように練習している。
- ・海外からの転校生が多いのでその国の挨拶などをアレクサや自分で調べて率先して話しかけています。
- ・祖父が身体障害1級の重度障害を患っているため、障害を持つ方へ積極的に手を差し伸べています。
- ・障害者週間のイベントに参加しパラスポーツを体験したり点字用紙でクリスマスベルを作ったり虹色の翼を作るワークショップに参加したりそこで買い物したりしました。手話の本を買って学んでいます。
- ・父と出かけた際に、耳に障害を持つ人を何人も見かけることがあり、手話に興味を持った。今はYouTubeで独学で手話を勉強している。
- ・沢山のひとと話したくて、手話や英語を勉強しています。まだまだですが、ちょっとずつ覚えて来ています。
- ・学校では積極的に1年生のお手伝いをしています。
- ・手話を勉強をしています。
- ・点字の勉強をしています。
- ・手話の勉強をしています。
- ・学校で手話を勉強しています。



- ・街をきれいにするためのゴミ拾いと、困っている人たちのために募金活動に参加しました。
- ・地域のゴミを減らし、きれいにする為、子ども会が主催する資源回収や公園掃除に積極的に参加している。
- ・地域のお祭りボランティアに参加する。防災グッズを準備する。
- ・町で倒れてるおじいさんを助けたり、家（マンション下にて）転んだおばあちゃんに救急車を呼んだりしたことがあります。
- ・同じ1年生の友達が朝学校行く途中で、学校行きたくないと言っていると横断歩道手前でお母さんと泣いていた時、私が声をかけて「大丈夫だよ、一緒に行こう」と頭をなでて手をつないで学校と一緒に行きました。公園などで小さい子がいると、一緒に遊んであげます。クラスやレッスンで1人の子がいるときは声をかけてあげます。
- ・電車でお年寄りに席を譲っています。



- ・お年寄りが重たい荷物を持っていたら声をかけてあげます。階段で、おばあちゃんが重たそうな荷物を持っていたので僕が持ってあげて階段を登ってあげました。
- ・自分の住んでる町の小学校、中学校と連携してのゴミ拾いや、花いっぱい活動(道路脇に季節の花を植える)というのがあって、みんなで自分の住んでる町をキレイにしよう！っていう活動をしています。常に困ってる人がいたら声をかけるよう心がけてます。(例えば、電車で席を譲ったり、荷物を持つ。小さい子に寄り添う。)などです。
- ・電車でお年寄りに席を譲ったり、困っている人を見かけたら声をかけたりしています。
- ・困っている人がいたら、声をかけて自分にできることをしようと心がけています。先日近所を歩いていたら、道の真真中にうずくまっているお年寄りがいたので、道の端に寄せてあげて、近くの大人を呼んで来ました。また、夏にもフラフラ歩いていたお年寄りが近くで倒れてしまったため、お母さんと一緒に救急車を呼びました。
- ・困っている人を見たら率先して声をかけるようにしています。杖を倒してしまったかたの杖を拾って渡したり、落とし物に気づいたらすぐに声をかけるようにしています。
- ・バスや電車に必要な人がいたら、席を譲っています。
- ・地域のごみ活動に定期的に参加しています。
- ・電車に乗っている時、立っているのが大変だったり、小さい子どもと一緒にいるお父さんお母さんを見かけた際には声を掛けて席を譲ります。エレベーターを下りる際、自分が端にいたら他の人に先に下りてもらってドアを手で抑えて挟まったりぶつかったりしないようにしています。



- ・ガソリンを使わないように、歩いてペットボトルや、牛乳パック、トレーを持って、リサイクルボックスまで運んでます！
- ・着れなくなった洋服やオモチャは、むやみに捨てず、リサイクルや、お友達に譲ったりしています。まだ使えるものが多いので、ゴミを増やさないよう心掛けています
- ・苦手な食べ物ものこさず食べるようにがんばった
- ・フードロスを無くすために、給食のおかわりを積極的にしています。
- ・ペットボトルのラベルをはがして捨てるなど、日々ゴミの分別は意識しています。
- ・3R活動3R活動
- ・家でゴミを捨てるときに、しっかり分別をしています。
- ・地域で開催される0円マーケットに参加して、使わなくなってしまったおもちゃや着れなくなったお洋服を持って行って欲しい方にあげます。私はお洋服を妹はおもちゃをいただいたことがあります。



- ・出かける時は水筒を持って行って、なるべくペットボトルを買わない。家の電気をこまめに消したりして、節電する。



- ・海のお魚さんたちやたくさんの命、海の環境のために "nanacoみらいチャレンジ"のペットボトル回収でリサイクルに貢献。
- ・夏の読書感想文に海洋プラスチックについての本を選び読んだ。ゴミ状況を調べるためにゴミ拾いをした。
- ・買い物をした時におつりを少しだけ募金する。ペットボトルなどはリサイクルする。エコバッグを持っていく。
- ・海洋プラスチックごみを活用するワークショップに参加して、自分だけのキーホルダーを作りました。またビーチクリーンで収集した流木を活用して、工作に取り組みました。
- ・環境問題について普段から意識して家族で取り組んでいます。休日には近所のゴミ拾いをしたり、海へ遊びに行った時には海岸のゴミ拾いをしています。また、プラスチック製品をあまり使わないようにしたり、ゴミのコンポストに取り組んでいます。
- ・学校で水道キャラバン（東京都水）の学習をし、水の大切さ、そしてキレイになるまでの時間を学びました。今まで自分は『土と砂利は汚い…』と思っていたけれど、『土と砂利でもキレイな水ができるんだ！』と考えが変わりました。水はとても大切な命との繋ぎ役です。ゴミのポイ捨ては絶対にしない！ゴミの削減、環境を汚さない努力、これからも続けて行きたいです。



- ・環境の為にゴミを減らす事をしました。生ごみをコンポストしました。
- ・ゴミの分別、ボランティア、リサイクル
- ・学校のジャブジャブ池のゴミ拾いをして、虫たちが暮らしやすい環境作りを目指しています。
- ・学校で新聞係をやっている毎週新聞を発行していますが、紙を両面使うことで紙の使用を無駄にしないよう心がけてます。

小学生（続き）



- ・父親や姉妹と日本に住むウクライナ避難民やウクライナ復興支援のためのイベントやワークショップに参加した。ウクライナの食べ物やウクライナの文化も学び、ウクライナの人達と交流した。
- ・通学中の小学校がキリスト教です。毎日平和を祈っています。
- ・困っている人を助ける、いじめられていたらやめるように注意する。



- ・私は子役として舞台やダンスイベントに参加しています。はじめた当時はまだコロナ禍で、人と人の距離があり、マスクの下表情も見えづらい、そんな毎日でした。世の中にもっと笑顔届けたい！という一心から、子役を続けています。エンターテインメントで人々にもっと笑顔届けたいです。いただいた出演料は、コンビニの募金箱に少しずつ入れています。小さな力も、みんなが意識すれば大きな力になると信じて、これからも社会の一員としてがんばっていきたいと思います。
- ・ゴスペルチャリティーコンサートに参加した
- ・キャンプに参加して、社会勉強をした。

中学生



- ・「異彩を放つ芸術家の作品を知る・広めるため」に、まずは自分でそのアート素材を使って作品を作りました！学校の美術の活動で出会ったことをきっかけに、ヘラルボニー社という、知的障害を持った異彩のアーティストの皆さんが描くアートを、商品や作品として提供する活動にとっても心を動かされるようになりました。もともとルームスタイリストのプロ資格など持っているので、中学校が選ばせてくれたヘラルボニー社の生地で作らせてもらったポーチは私の自信作です。



- ・独学で手話を勉強しました。



- ・困っている人が居たら、率先して声をかけてあげる様にしています。先日、迷子のおばあちゃんを見かけお母さんと警察に連絡をして無事に保護してもらいご家族と会うことができました。「ありがとう」の聲がとても嬉しかったです。



- ・ゴミ処理関連のソーシャルアクションを2つ起こしました。
1つ目は食品ロスについてです。学校で「一年に約一億トンもの食べられるものが捨てられていて、ゴミが増え続けている。」「このままでは埋立地がいっぱいになってしまうし、ゴミ処理の際に出た排気ガスなどが地球に大きな負担をかけてしまう。」ということを読んでから、常日頃から気にかけています。例えば、ゴミが増えるのを防ぐために自分が食べられる量を調節し大切に食べたり、一度よそったものは必ず完食するようにしています。また、コンビニエンスストアなどで食品を購入する時も食品ロスのことを考え、賞味期限が短く、安くなっているものを選ぶようにしています。
2つ目はゴミの分別です。ゴミの分別にはたくさんの負担とエネルギーがかかります。正しく分別していればそのどちらとも多少は軽くなり、地球のタメになるのでは？と思い、こまめにゴミの分別を心がけています。また、学校で行われているエコキャップ回収にも、数は少ないものの、積極的に参加しています！
- ・食事を残さずは心がけていて、外食した時、友達が残したのも食べます。



- ・エコバッグを使う。
- ・2024年8月に東京学芸大学が香川県で行ったSDGsのプログラムに参加して、海洋ゴミを拾い、アートに変える活動をしました。海をきれいにすることで地域の人々に貢献し、かつアートにする事で新しい価値を作り出して、「ゴミ」という概念をなくすということに挑戦しました！
- ・買い物をした時にレジ袋は購入しないようにしています。自分の持っているバッグにレシートと一緒に入れておくか、食料品の買い物の際にはマイバッグに袋詰めします。また、外食先でドリンクを飲む時に、プラスチックのストローしか置いていない場合には使わずに飲むようにしています。



- ・フィリピンの現状を知り、自分に何ができるかを考えるため、NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンのフィリピンスタディツアーに参加した。



- ・日本の自殺率に驚き、自分の経験から音楽療法の普及のための活動や研究をしています。文部科学省のトビタテ留学ジャパンの日本代表留学生としてスタンフォード大学に短期留学し、そこで得た技術を使って敷居の低い音楽療法を実現させるために尽力しています。
- ・看護のインターンシップに参加しました。混合性難聴の高齢者の患者が何か言いたそうにしていたので、声をかけました。看護師と共に患者が何を言いたいか聞くと、食べ物に詰まって苦しいと言っていることが分かり、窒息を未然に防ぐことができました。また、退院する患者もあり、笑顔で看護師にありがとうございました。と伝える姿を見て私もこのような、人を笑顔にする看護師になりたいと思いました。



- ・2024年を生きる世界の人を知るために、今年の夏休みにフィリピンを知る研修に参加しました。お互いに相手の国の言語や街やその国ならではのことなどを現地の方々にインタビューをしたり、地元の子供達と一緒に沢山のゲームをしました。研修に参加した人達全員が心を通わせ同じ人として接し、繋がりを持つ活動をしました。



- ・途上国の下水処理問題を解決し、衛生環境改善のために下水処理に関する微生物の研究を行っている。



- ・耳が聞こえない従兄と手話で会話がしたくて勉強をしています。手話で自己紹介をすることが出来ます。あと、数字の1~100まで表すことが出来ます。



- ・Gprojectと呼ばれるものに参加し、沖縄の貧困問題を解決するためのビジネスプランの作成もチームメンバーと3ヶ月以上かけ、ヒアリングや講座を通して作成しました。沖縄の貧困問題解決によって沖縄に住む未来の子供もたちのために、鉄道開通を目指すビジネスプランを考え実際に署名活動といったアクションも取りました。



- ・着なくなった服をすぐに捨てるのではなく、リサイクルショップに売る、リサイクルボックスに寄付する等、服を無駄にしないよう心がけています！
 - ・都心で自分の体に気を遣っていない人と、地方で良い作物を育てているがブランディングといったマネジメント面での不足を抱えている有機農家を「薬膳」を通して解決するビジネスモデルを作り、社会に発信し実現できるよう、ビジネスコンテストへ応募しました。この報告時点ではまだ結果は出ていませんが、私はこのソーシャルアクションは、社会がもっとポジティブになることにつながると確信をしています。この円安の日本において、安さだけにフォーカスし、自分の体のことを気遣う余裕もなく食事を行う人は心身共にwell beingとは言えないのではないかと、学校の授業を通して考えました。そこで、以前から探究を続けていた、漢方や薬膳で解決することができるのではないかと考えました。マインドフルネスの考え方、また薬膳といった予防医学の考え方の普及により、一人一人が自分自身を大切に生きてほしいと思っています。また、地方有機農家の方たちは真の豊かさを追求し本当に良い作物を生産しているにも関わらず、マネジメント面での不足によって、消費者のもとへあまり届いていないことが、インタビューによって知ることができました。地方有機農家と都市部消費者を薬膳流通網の確立によって繋ぐことができるのではないかと考えています。
- このビジネスは、顧客である都市部消費者のみにつくられたものではありません。持続可能な生産者と消費者の関係を構築するため。そして、もっと人々が自分のことを、体を大切に気遣えるような社会をつくるために、考えました。実際に薬膳ショップの経営者の方や、漢方医の方、有機農家さんが携わっているマルシェでの運営を手伝いやインタビューを行わせていただき、実際の現場でのアクションによって、私が目指す社会形成、また社会課題に対してのアプローチも行うことが出来ました。半年以上かけ実施したこのプロジェクトは、私自身にも、そして社会課題解決としても、有意義であったと思います。



- ・食べ放題のお店に行った時、周りの友達がとても一人では食べきれない量の食べ物を頼んでいました。私が注意すると「何で残したらいけないの？」と聞いてくるのです。私は今まで、食べ物を残さないことは当たり前だという一般論をただ鵜呑みにしているだけだった為、友達の単純な疑問に曖昧なことしか言えませんでした。出来たことは、友達が頼んだものを黙って食べ尽くすことくらいで、とても悔しかったのを、鮮明に覚えています。

その後、私自身も食品ロスについてもっと知る必要があると感じ、SNSを通じて頻繁に調べるようになりました。その中で「食品ロス」の量と世界の食料支援量がほぼ等しいことや、今約8億人の人々が飢餓に苦しんでいることなど様々なことを知りました。これらの事実を通して、自分が知らなかっただけで世界はこんなにも課題や困っていることに溢れているんだ、と思ったのと同時に「友達もただ無知なだけだったのだ」と気付かされました。勿論、「食品ロス」という単語自体が普及した事によって、今までよりもこのことについて興味を示す人は増えたと思います。しかし、それは表面的なもので「何故そうすべきなのか」といった理由が欠如している人が私含め沢山おり、だからこそ完全な解決に至らないのではないかと、思います。実際、私が今回調べたことを友達に話したところ、とても真剣に話を聞いてくれ、今後気をつけるように言ってくれました。

私はこれからも食品ロスについて沢山の知識を知り、取り入れ、それをまずは身近なところから発信していきます。そして、それをどんどん大きな輪にしていき、いつかこの地球が「食べ物で人々が困ることのない場所」になることを願っています。



- ・地球温暖化解決のため、買い物の際にビニール袋の使用をやめて、エコバッグを使用している。



- ・プラスチックごみ問題が懸念されている海洋生物のため、日々エコバッグを持ち歩き、ビニール袋はもらわないようにしている。



- ・社会の問題を知り、これからの自身の行動について考える為、法政大学教授が主催する、SDGsのワークショップに2ヶ月間参加。また、人々に歌の力をより届けやすくし、心の支えとすることで人々の生活をより良くしたい思いから、今後、大学では「心を支える歌」について歌詞視点から研究を行う。

ユース



- ・障害を持つ子どもたちが自分らしく学べる環境を作ることに尽力しました。具体的には、講師として発達障害を持つ子どもが通う塾に勤め、学校等でマイノリティを感じやすい障害?特性を持った子どもたちが自分の得意なことを伸ばせる、社会のルールやマナーを自分のペースで学べる授業を考え行っていました。現在は、より幅広い世代の障害特性を持つ人々が自分らしく活躍できるような、生き生きと楽しくはたらくことができる社会を目指して、特例子会社でマネジメント職に就き日々学んでいます。



- ・耳の聞こえない人、手話を母語とする人が言語の壁がなく思いっきり活動をしたり一緒に仕事ができるよう、手話を学び始め、手話でエンタメをする会社で働き始めました！今まで、興味はあっても一歩踏み出せなかったけど、今年の6月に勇気を持って、障害の壁、言語の壁について学びを深めて実際に動いてみました。もちろん違うこともたくさんあるけれど、私たちが学ぶことで変えられる世界があると知りました！



- ・学校外のイベントで皆が笑顔で入れるように、楽しんでもらえるために自分の役割はしっかり責任をもって毎日行動しています。



- ・資源の無駄を減らすためや、ゴミ処理場の方が手作業でラベルを剥がしていることを知り、少しでも楽に作業できるように、ペットボトルのラベルとキャップを外して、分別している。
- ・自分の好きな服やファッションを通じてより多くの人にSDGsや地球環境問題を知ってもらうために、履けなくなったズボン2つを、1つの別のズボンにリメイクした。今後は、この活動を、InstagramなどのSNSを通じて発信していき、それが"ゴミを減らして自然破壊を守る"ことに繋がることも期待したい。
- ・フードロス減らすために、スーパーで買い物をするときは使い切れる量の食材を買い、保存方法も工夫して、期限切れで捨てることがないようにしている。
- ・昨年末、母が勤める中古家具店へ訪問・事業内容について学んだことで、言葉としては身近にあった、リデュース・リユース・リサイクルをより意識して行動するようになりました。母の勤め先である「AnttaLab」では主に空き家となってしまうご予約のお宅を訪問し、循環(Antaa)することができる床材や家具を引き取り、家具本来の形あるいはメンテナンス・リメイクを施し販売するという「資源の無駄を減らす」事業を行っています。限られた資源をうまく活用し、より長く豊かな地球を守ることに繋がってきたいなという意識が芽生えました。個人としてできることに限りはあるものの、捨てようと思っていた家具家電を人に譲る、区のルールとしては可燃ゴミとして出せるものもなるべく細分化した分別を行うなど自分にもできそうなことを探し取り組んでいます。



- ・私は、深刻な食糧危機を引き起こしている気候変動問題に関心を持ち、様々な行動をしてきました。アメリカに1年間留学していた際には、都市農業への活用が期待されている水耕栽培の研究所で助手として働き、先進的な技術やサステナビリティについて学び、活動しました。さらに、日本のフェミニズムを軸に農業を営まれている農家さんで5日間の農業インターンシップを行い、自然の循環を壊さない農業を実践しました。
- ・環境のためにペットボトルリサイクルに努めた。フードロス対象商品を購入した。



- ・買い物の際になるべくビニール袋をもらわないようにした。
- ・未来の私たちのため、プラスチック問題について考え、ゴミになっていたものを少しでもより良いものに変えるアップサイクルに取り組んだ。大学内で、ペットボトルキャップを回収し自分たちの手で何かかえられないか活動している。
- ・環境のために、小さなことですが日々自分にできること(何かを処分をする際にリユースショップを利用する、落ちているゴミは拾う、リサイクルされている商品を積極的に買う)を行っています。



- ・飲み物を購入する際に、SDGsの取り組みを積極的に行っており、収益の一部が緑化運動に募金される株式会社八洋の自動販売機の商品を選んだ。
- ・主に「食と命」について考えるために、夏休みに、発展途上国の農村のリーダーを育成をしているアジア学院という栃木県にある小さな学校の5日間のプログラムに参加した。そこでは、いろいろな国の人たちと農作業を一緒に行ったり、ご飯を作ったり、ゴスペルを歌ったりした。鶏が卵を産むところを間近で見たり、生まれたばかりの卵を取り上げる体験もできて、命をご飯として頂いているありがたみをよく感じることができた。そこから、動物福祉にとっても興味を持つようになり、今では動物福祉の本を読んだり、セミナーに参加したり、友達と意見の交換をしたりしている。
- ・保健所に連れていかれそうな猫を保護しました！猫の里親になりました！猫の預りになりました。
- ・ゴミ削減の為、カフェで飲み物を飲む時、持ち帰り用の容器ではなく自分のタンブラーを使って頼んだ。
- ・「紙媒体のチケットを廃止し、電子化に変更したこと」地球のために行いました。
SAfro FAmilyがチケットを電子化した目的は、持続可能性と効率性の向上のためです。紙チケットを使用することは、地球環境に悪影響を与えるだけでなく、紛失や転売のリスクも伴います。電子チケットを使用することで、これらの問題を解消し、地球環境に配慮した上で、ライブに来てくださる方々がより快適に、安心してライブの鑑賞ができることを目的としました。(団体報告：SAfro FAmily 大学生18名)



- ・虐待や貧困に苦しむ子どもがどうしたら笑顔になるのか、またどうしたらそういった現状を変えられるのかを疑問に思い、まずは現状を知り根本を探らなければ何も変わらないと思い、学校の虐待に苦しむ子どもの笑顔のためにということをテーマに活動するゼミに参加し、研究を行っています。
- ・車椅子利用者です。東京から新幹線で大型車椅子で原爆資料館を訪れて、追悼をしてきました。修学旅行などで訪れる機会がなかったので、戦没者のこと戦争のことを学びたいと思って訪れました。今後の活動、人前でお話しする機会には、平和の大切さ、戦争のおろかさ、悲惨さを自分の目で見て感じたことを伝えられたらと思います。

ボランティア

ゴミ拾いへの参加や被災地支援、チャリティイベントのサポートなど、
自分の意志で社会のためになる活動に参加・貢献すること。



アクション実施者

- 人数 4
- 区分 中学生
- 活動地 埼玉県



取り組んだアクション

実施内容

気候変動、地球温暖化などの社会問題に少しでも貢献するため、また、全ての生き物が幸せに暮らせるためにゴミ拾い活動を行いました。近所の公園や道路などのいろいろな場所を回りました。見た人が一目でわかるように大きなダンボールでプラカードを2つ製作し行いました。また、友達を誘ったりし、興味をもってもらえるきっかけになったと思います。

- 社会課題 気候変動

- 支援先

- 実施期間 2024年4月2日～2024年9月30日

- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

一つ目はプラカードを作成し皆さんに少しでも興味をもってもらえるきっかけになるようにしました。プラカードを下げて活動していると声をかけられる回数も増えました。もうひとつは友達を誘ったりし興味をもってくれる人を少し増やせたことです。これからもっと興味をもってくれる人を増やしていきたいです！



困難だったこと/次回に活かすこと

次はもっと人を増やしてやってみたいと思いました。今回は前回より増やすことが出来ましたが、もっともっと人を集めてゴミ拾い活動をしたいです。同じ思いをもっている人はまだまだいると思います。人を集めるためにはイベント式にしてみんなが集まりやすい環境を作りたいです。



これからアクションを起こす人へメッセージ

誰にでも世界を変えられることが出来ます。私たちと一緒にアクションを起こしていきましょう。仲間はたくさんいます。あなたなら世界を変えることが出来ます。少しの勇気をもって共に頑張ってください。あなたの身近なことが世界を変えます。Together we can change the world!

ボーイスカウト東京北1団 菊一 真人



アクション実施者

- 人数 30
- 区分 中学生
- 活動地 東京都



取り組んだアクション

実施内容

2024年8月3日の板橋花火大会の翌日の会場でボーイスカウト東京北一団の清掃奉仕活動を行った。早朝6時半から9時まで隊員1人1人がゴミ袋とトングを持ってゴミを拾い、土手をきれいに掃除した。全員で力を合わせローラー作戦でゴミ拾いをした。私たちの住む街をよりよく住みやすくするために花火大会の翌日の会場を掃除した。

■ 社会課題 ゴミ

■ 支援先

■ 実施期間 2024年8月4日

■ 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	75 時間
インパクト人数	多数 人



工夫したことや達成したこと

ゴミを見落とさないようにローラー作戦でゴミ拾いしました。ゴミの種類も多岐にわたり、弁当やおつまみの空き容器や割り箸や串から始まり、清涼飲料水やアルコールの空き缶、空き瓶の中身が残っているものもたくさんあり、大量のゴミがありました。仲間たちと競争しながら楽しく活動できました。



困難だったこと/次回に活かすこと

早朝6時半から集合し、朝のうちに終わらせようと頑張りました。途中、水分補給も気をつけて熱中症にならないようにしました。来た時と帰る時では見違えるほど、会場の土手は綺麗になりました。花火大会は大勢の人が来るので、たくさんのゴミが落ちていました。誰かが掃除しなければ土手はとても汚くなっていました。最後は清々しい気持ちで帰ることができました。



これからアクションを起こす人へメッセージ

ゴミ拾いは誰にでもできる身近な奉仕活動です。公園や駅前などみんなが使う場所を綺麗にすることはとても大事なことです。一人でもできますが、大勢でも楽しくできることがゴミ拾いのいいところだと思います。来年も花火大会を楽しみにして下さい。



アクション実施者

- 人数 1
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 栃木県



取り組んだアクション

実施内容

実行委員として「子どもの権利条約フォーラム 2024 in Tokyo」で会場誘導とマイクランナーとして活動した。会場誘導では、来客者に席を案内したり来客者からの質問に答えたりなどをした。そして、マイクランナーでは、なるべく多くの来客者にマイクを渡したり、自分から来客者に投げかけをしたりなど話し合いに参加してもらおうと補助をした。

- 社会課題 子どもの権利

- 支援先

- 実施期間 2024年11月10日

- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	8 時間
インパクト人数	1000 人



工夫したことや達成したこと

マイクランナーとして活動した際には、限られた時間の中でどのくらいの人に答えてもらうことができるのか大学生と工夫して効率よくマイクを回すことができた。そしてマイクを渡すときも笑顔忘れずに活動しているとお客さん側にも笑顔が段々と増えて嬉しかった。



困難だったこと/次回に活かすこと

マイクランナーとして活動した際には、お客さんに的確に場所を伝えたり、質問に答えたりなどするのが難しかった。けど、一緒に活動した大学生に助けをもらいながらなんとか相手にわかりやすく伝えるように頑張った。これからは1人でもできるようにコミュニケーションを頑張っていきたい。



これからアクションを起こす人へメッセージ

自分にはできないと思って無意識に他人事だと思っていましたが、実際一歩踏み出してアクションを起こしてみると新しい世界について知れたり、いろいろな人と繋がることができると思うからどんどんアクションを起こしていこう！！



アクション実施者

- 人数 15
- 区分 大学生/大学院生
- 活動地 大阪府



取り組んだアクション

実 施 内 容

NPO法人ドリーム・サステナビリティ・ジャパンとたこ焼き販売を行う株式会社さんと協力して、開発途上国で炊き出し活動を行いました。特に、セブ島にてフィリピンの子どもたちに栄養補給をする事を目的とした、たこ焼きの炊き出しを行いました。また、NPO法人ハロハロさんがセブ島現地のNGO団体と繋げてくださり、直接的に現地の子どもたちへ日本食を通した文化体験を提供することができました。

- 社会課題 貧困
- 支援先 NPO法人ハロハロ
- 実施期間 2024年5月1日～2024年9月1日
- 数値的成果

お金の寄付	300,000 円
モノの寄付	個
ボランティア時間	50 時間
インパクト人数	100 人



工夫したことや達成したこと

この炊き出し活動をする上で一番大切だったことは、周りの方々との協力です。そのため、チームワークを活かせるようなコミュニケーションを行う事を心がけ、積極的に色々な方々と対話する事を工夫しました。その結果、日本とフィリピンの国を跨いだ国際協力を行うことができました。多くの人たちが携わることができた活動になってよかったです。



困難だったこと/次回に活かすこと

活動する上で必要な資金をしっかりと調達は困難であったが、粘り強く社会に呼びかけることで活動をするために必要な資金を調達することができると学んだ。今回の活動で学んだ資金調達メソッドを生かし、今後も積極的に社会貢献活動を行っていききたいと思います。



これからアクションを起こす人へメッセージ

初めに活動していた頃は、自分が想像するような規模の国際協力活動をすることはできませんでした。しかし、目標を明確に設定し、何度も社会貢献活動を続けていくことで少しずつ自分ができる社会貢献活動の幅が広がっていることに気づきました。最初はどんなに小さなことでもいいので、やってみてください。そして、その小さな積み重ねが社会を良い方向に変えてくれると思います。



ひづき



アクション実施者

- 人数 1
- 区分 中学生
- 活動地 埼玉県



取り組んだアクション

実施内容

「サンタパレード東京」で、日本にいる病気と闘う子どもたちや海外の貧困の中にいる子どもたちが自分らしく生きられるように、その子たちを支えたいと思う参加者がイベントに気持ちよく安全に参加してもらい、イベントが最大限盛り上がるように、スタート・ゴール誘導のボランティアとして、会場づくりや参加者と一般歩行者などへの声かけと誘導案内を行った。

■ 社会課題 貧困問題

■ 支援先

■ 実施期間 2024年 11月 17日

■ 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	8 時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

これまでイベントの裏方みたいなことをあまり経験したことがなかったので、自分なりにサンタパレードが最大限盛り上がるよう工夫した。当日、初めて会った人からの指示で動かなければならなかったので指示をよく聞きそれ以上に行動できるような時間などを気にして動いた。また、病気や貧困の中にいる子どもたちを応援したいという参加者が安全にイベントを楽しめるようにボランティアメンバーと協力できた。



困難だったこと/次回に活かすこと

今までのボランティアよりスケールが大きく、知らない人とのコミュニケーションが必要だった。イベントの多くの参加者の中には日本語以外を話す方もいたのでどんな人にも柔軟に対応できるようにしたいと思った。イベントの進み具合など状況によって行うことが変わったりすることがあったので、動きを把握するのが難しかった。



これからアクションを起こす人へメッセージ

今世界は社会問題で溢れています。自分なんか世界を変えられるわけないと思っている人、どんな小さな行動でも誰にでも世界を変える力があります！そして、社会問題が深刻化している今、1人1人がアクションを起こす必要があると思います！みんなで世界を変えていきましょう！



ゆに



アクション実施者

- 人数 3
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 東京都



取り組んだアクション

実施内容

私はキャリアチェンジ犬飼育ボランティアをしています。訓練をしたものの性格や身体的健康面で盲導犬に向かないと判断された犬をキャリアチェンジ犬といい、ボランティアで犬が天寿を全うするまで家族の一員として迎え入れます。私はずっと犬を飼いたいと思っていましたが、ペットショップから買うのは本意だったため、家族と話し合い盲導犬協会から引き取ることにしました。申し込みは一定数あるものの、実際に飼育をお願いできる家庭は減少してしまっているそうです。見えない人、見えにくい人を誰一人取り残さない持続可能な盲導犬育成事業のために、間接的ではありますが、貢献出来ていると感じています。このボランティアは犬の一生と同じ時間続くので、これからも責任を持って一緒に過ごしていきたいです。

■ 社会課題 盲導犬育成

■ 支援先

■ 実施期間 2024年 7月19日

■ 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

数や結果として達成したことを測るのは難しいですが、散歩していて会った人などに愛犬の紹介をする際に、盲導犬協会のことやキャリアチェンジ犬飼育ボランティアのことを説明しているので、飼うことだけでなく伝えるということもアクションとして達成出来ているのではないかと思います。



困難だったこと/次回に活かすこと

今まで犬を飼ったことがなかったため、ご飯を食べない時があったり、お風呂を嫌がったり、散歩の途中で歩かなくなったりした事が初めの方はどうしたら良いか分からず困難に感じていました。しかし、生活していくうちにできることが増えてきているので、これからも様々な工夫をしながら上手くトレーニングをしていきたいです。



これからアクションを起こす人へメッセージ

盲導犬は訓練をしても2~3割程しかなることができないため、キャリアチェンジ犬飼育ボランティアはとても重要です。もし大型犬の飼育を考えていたら、サポートが充実していて、途中まで訓練がされているため安心して引き取ることができます。盲導犬協会では、その他に引退犬や繁殖犬を飼育するボランティアなどもあります。犬と暮らすことも社会問題を解決する一つになるように、アクションには様々な種類があります。どんな小さいことでも世界を変える一歩に繋がるはずです！一緒にアクションを起こして行きましょう!!



アクション実施者

- 人数 18
- 区分 小学生～社会人
- 活動地 フィリピン



取り組んだアクション

実施内容

スタディツアーに参加し、

現地の人々と交流・ボランティアを行った。

- ・先住民族の村で、農園、学校を訪問、子どもたちとの交流、ホームステイ
- ・刑務所や虐待から救出された男の子たちの施設を訪問、交流
- ・性的搾取から救出された女の子たちの施設を訪問、交流、事実説明練習の聴衆ボランティア
- ・フィリピンの歴史を知るための観光
- ・マニラのスラム地域を訪問、漁港訪問、子どもたちとの交流、家庭滞在・インタビュー

- 社会課題 子どもの権利、貧困、飢餓、教育

- 支援先

- 実施期間 2024年8月1日～8月7日

- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	108 時間
インパクト人数	人



ツアーを終えての感想

- ・現地の暮らしを見て多くを学び、自分の常識が揺さぶられました。行く価値のある経験です！
- ・12歳で妊娠した少女と出会い、フィリピンの深刻な社会問題を実感しました。
- ・現地で文化や社会問題に触れ、自分も何かアクションを起こしたいと思うきっかけになりました。
- ・現地での出会いを通じて、自分の恵まれた環境に感謝し、支援の必要性を強く感じました。
- ・中高生の柔軟な視点に多くを学び、日本の未来に希望を感じた貴重なツアーでした。
- ・社会問題に関心を持ち続け、日常でも行動できる大人になりたいと進路への考えが深まりました。
- ・フィリピンの人々の明るさに触れ、「豊かさ」や「支援」の本質を考え直すきっかけになりました。



これからスタディツアーに参加を考えている人へメッセージ

- ・不便さより楽しさが勝る一週間！五感で学び、宝物のような出会いが詰まった体験です。
- ・不安はすぐに吹き飛びます！明るく優しい仲間とスタッフに出会え、後悔は絶対ありません！
- ・人生が変わる経験でした。現地体験と振り返りを通じて、自分の未来を考えるきっかけになりました。
- ・初海外でも不安なし！迷っているならぜひ参加を。人生が変わるきっかけになります。
- ・不安だったけど毎日が濃くて楽しく、友達もできました！学びも出会いも満載の1週間でした。
- ・迷っているなら今すぐ参加を！中高生での体験は人生の大きなプレゼントになります。
- ・現地での出会いや体験は一生モノ！迷っているなら勇気を出して、ぜひ飛び込んでみてください。

小学生



- ・先日家の近所で自転車同士の事故を見かけ、タオルや絆創膏、保冷剤など救急道具を持ち手当に母と行きました。後日おばあさんからお礼のお手紙をいただきました。



- ・学校で「ひまわり」という教室があり、近隣の小中高校に通う、外国から来たばかりで日本語がまだ分からない子どもたちとの交流をしています。通訳さんを含めて、一緒に給食を食べたり、近隣の大人の外国の方を小学校に招いて、日本の文化を紹介したりしています。



- ・公園をはじめとした地域のゴミ拾いと看板設置をしました。
- ・気持ちよく公園利用できるよう夏休みにラジオ体操後にゴミ拾いをしました。
- ・町がきれいになるようゴミ拾いをしました。
- ・動物にも地域にもより良い暮らしになるよう、保護猫活動をしています。TNR活動(野良猫を保護し、病院で去勢手術を行いリターンする)、外で暮らせない猫は里親を探し、ずっとの家族に繋げています。
- ・街のゴミ拾い
- ・お父さんお母さんと一緒に台風で浸水した緑地の泥やゴミを集めて捨てました。一番は、早く緑地でお兄ちゃんたちが野球をまたできるようにと思ってやりました。お母さんが野球だけでなく、犬の散歩とか小さい子が遊んだりとかみんなにとって良いことがあると教えてくれました。
- ・2022年に地元静岡県を襲った、台風15号、全国から、ボランティアに来てくれたら人達と、お母さんとお父さんが一緒に活動をしました。私が住んでいる清水区では、断水が1週間以上続き、床下、床上浸水、山間部では、土砂災害などもあり、支援物資、水などをお母さんやお父さん、ボランティアの人達と届けに行き、私も配るお手伝いなどすることができました。そこから、災害など何かが起きた時、起きる前に自分がなにをすべきかやこういった行動をとればよいのかなど考えるきっかけになりました。今年の8月の最後の週にも静岡県を台風の大雨が遅い、近くの川が氾濫警戒水位を超え、床上、床下浸水が起きました。ですが、以前の教訓があったお陰で、色々な準備や気をつけなきゃいけないことなど前もって準備や行動、必要な情報など、家族で共有することができました。お母さんのSNSを通して、情報発信などもできました。これからますます気候変動によって色々な地球の変化が起きてくると思うので、たくさんたくさん自分にできることも考えながら、災害が起きた場合、命を守る行動がとれるように、学校の友達などとも話し合ったりできるようにそんな時間がとれたら良いなあと思います。
- ・夏休みの野球合宿中、駅前の公園で行っていた盆踊り（お祭り）が最終日ということもあり、合宿2日目の朝にみんなで公園内、街を少し歩きまわり地域のゴミ拾いをしました。
- ・月に一度、学校が休みの日にクリーン作戦という地域のボランティア活動があり、指定された場所のゴミ拾いを手伝っています。
- ・お祭りの翌日のゴミ拾いボランティアに参加しました。最初は夏の暑い日のゴミ拾いは大変だなあと思って参加しましたが、屋台のゴミやタバコの吸い殻やお酒の缶などが落ちており、拾えば拾うほど楽しくなっていました。自分の住む街が綺麗になるととても嬉しいです。
- ・公園清掃に積極的に参加して掃除している。
- ・家近くのゴミ収集場によくカラスがきてゴミをめちゃくちゃに散らばしてしまったのですが、それを見たらお母さんと一緒にホウキでゴミを集めてます。お母さんは幸せ貯金できたわねと言ってくれます。
- ・町内会のおじいちゃんおばあちゃんとボランティアで太極拳をやっています。
- ・近隣の公園掃除
- ・地域の清掃に積極的に参加しています。
- ・年2回、学校と地域のみなさんと一緒に清掃活動をする日があり参加しています。校外活動で公園や土手のゴミ拾いをしています。
- ・学校のボランティアで駅付近のゴミ払いをしました。
- ・近所のゴミ拾いをしている。(ピックアップウォーキングの隊員として)
- ・公園で遊んでいるときにベンチに小銭がおちていたので、交番に届けた。
- ・ゴミの分別やリサイクル。電車で席を譲る。定期的にマンション住人と近隣のゴミ拾い
- ・学校での朝のあいさつ運動。校門や下駄箱、入口で登校してくる先生や生徒、学校関係者に大きな声であいさつをします。

小学生



- 大好きな海や生き物の命、街を守るためにビーチクリーンなどの清掃活動やSNS投稿等
- 海や生き物の命、街を守るためのビーチクリーン・SNS投稿
- 東日本大震災後、14年間遊泳禁止になっていた仙台市にある深沼海水浴場。歴史のある海水浴場で、母も子どもの頃よく遊びに行っていたそうです。14年ぶりに再開する海水浴場を宮城の有志たちと一緒にビーチクリーンしてきました。
- 奄美大島でウミガメと一緒に泳いでとても嬉しかったので、砂浜のプラスチックのゴミを拾った。
- 海岸清掃
- 山に行って、木の苗を植えた。人工の森を作って、地球温暖化を防ぐ目的。



- 海、川、山、色々な所に出掛けると沢山ゴミを見つけるので、拾っています。
- ボランティア活動で近所の公園の花壇に種を植えたり水やりをしました。
- 先月から保護犬を2匹引き取って育てています。



- 花火大会翌日早朝、地域が綺麗になるようにゴミ拾いをしました。
- 老人ホームでのダンス披露と合同運動会。

中学生



- まずは、FTCJが主催している夏の2024フィリピンスタディツアーとテイクアクション・キャンプに参加しました！スタツアでは、アエタ民族の村の小学校でご飯を提供したりしました。また、自分が通っている学校では、夏の思い出としてFTCJの話をし、世界ではこうした問題が起きていることを発表しました。



- フリー・ザ・チルドレン・ジャパン主催の、ハロウィンに合わせて食品ロスについて考えフードドライブに取り組むイベント「ハロウィンフードドライブパレード2024」で、ボランティア活動をした。



- 重度身体障害者施設でお手伝いをしました。
- 障害児の支援で放課後デイサービスに夏休みにボランティア活動をしにきました。



- 障害児の支援で放課後デイサービスに夏休みにボランティア活動をしにきました。



- 手話を勉強し、老人ホームで手話を使い坂本九さんの上を向いて歩こうを歌いました。



- 学期末時に学校で地域清掃活動に取り組んでいます。
- 近所の公園のゴミ拾いをしています。
- 1.落ち葉拾い 2.雑草抜きと花植え 3.防災イベントのお手伝い
- 近所の公園のゴミ拾いを母と一緒に、赤ちゃんの頃から続けています。初めはゴミが目立つ公園でしたが、気づけばゴミのない綺麗な公園になりました。ゴミを平気で捨てている大人や子どもを見てきましたが、母が「自分のゴミは自分で片付けましょうね」と伝えていたその姿に「相手に伝える勇氣」を学びました。「小さな行動が地域を変える」ことを目の当たりに体験した大事な経験です。世の中の役に立つと言うのはこうした小さな行動の積み重ねだと思います。この気持ちを持ち続けたいです。
- 地域のゴミ拾い。
- 街の清掃活動を自主的に行動をして、ゴミ拾い。家の事情でお家に居られない子供と一緒に遊んだ
- イベント後会場がきれいになるようゴミ拾い。
- 道を綺麗にするためにごみ拾いをした
- 地元のボランティアをしたりしています。
- 公園を利用する小さな子供達のためにゴミ拾いをしました。みんなが気持ちよく利用できるようにその行動を行いました。
- 地域の社会福祉協議会の中のボランティアグループが行っている子ども食堂で、参加している子どもたちのお世話などを手伝いました。
- 地域の子供たちを楽しませるために地域の中高生ボランティア「リーダース」に所属している。

中学生（続き）



- ・地域のお祭りの翌日、朝早く花火大会の残骸のゴミ拾いボランティアにいきました。
- ・まず現状を知るために日本で一番貧しい自治体の村（鹿児島県硫黄島）に島留学をして、海岸のゴミ拾いやウミガメの子供を保護し海に放流した。
- ・誰でも食堂で調理の手伝いをした。
- ・地域のお祭りに参加して神輿を担ぐ若者が少なかったので神輿を担いだ。
- ・私が住んでる渋谷の街(渋谷駅周辺)のゴミ拾いをしました！渋谷警察署の少年団をやって、地域の皆さんに交通安全や詐欺防止の声掛けをしました！うちでは、ゴミの分別が私の仕事です。



- ・気候変動、地球温暖化などの社会問題に少しでも貢献するためにゴミ拾い活動を行いました！プラカードを作り皆さんに興味をもってもらえるきっかけを作れたと思います。これまでは、姉妹だけで取り組んでいましたが、今回は、興味がある友達を誘って輪を広げられたとおもいます。



- ・学校で募集していた荒川での清掃活動に参加した。SDG sに興味がある自分のために参加し、海の環境の現状を知り将来に生かしたいと思ったから。
- ・海の生態系を守るためにビーチクリーンを行った。
- ・今年、修学旅行で宮古島に行った際に、海辺のゴミをみんなで拾い新聞に載りました。



- ・街がきれいになるように、近所の川沿いのゴミ拾いをした。
- ・保護猫愛護活動をしている方から子猫を引き取り大切な家族に迎え入れ、一緒に暮らしています。



- ・まずはボランティア活動に参加してみるということに挑戦した。

高校生



- ・タイに住むミャンマーからの移民の人や、シャン族の人に教育支援と生計支援をしています。実際に現地に出向き、私は主に学校でのイベント開催やメタバース開発などを担当しています。
- ・子ども食堂を手伝った
- ・フィリピンの社会問題やこどもを取り巻く問題について知り、解決策を考えるため、フィリピンスタディーツアーに参加した。
- ・世界の貧困、子供の教育格差などに、小学生の時から興味がありました。今年の8月に一人でルワンダという国に行き、託児所のお手伝いやアクティビティの提供をしました。また、その施設にはシングルマザーのかたがたくさんいました。思いを聞いたり、現状を知るなど、大変勉強になりました。そして何よりも私自身がまた行きたいと思うぐらい楽しい時間を過ごしました。



- ・子ども食堂のボランティアを行った
- ・こども食堂のボランティア



- ・多くの人々が必要とする知識やスキルの向上をサポートしたいと思っています。私は中国からの帰国子女なので、今日本にいる中国人の友達に日本語を教えています。その他、外国人や帰国子女高校進路ガイドンスも参加しています。
- ・NPO法人のプレーパークと言うところで、自分が遊ぶ事ももちろん、小さな子や地域の人たちとの繋がりを大切に活動してます。



- ・高齢者の祖母や視覚障害者の姉のサポートを積極的にしています。



- ・地元の人々に楽しい時間を過ごしてもらうため、地元の祭りのイベントスタッフをした。
- ・地域に暮らす、技能実習生をはじめとする外国人住民の生活をサポートするため、彼らに日本語を教えるボランティア活動を行った。
- ・2023年7月下旬に公民館主催の登山イベントで安全に子ども達が参加できるよう引率ボランティアをした。
- ・街がきれいになるように、住宅街のゴミ拾いをするボランティアに参加した。
- ・街のゴミ拾いに参加
- ・地域の方々全ての層の皆様が楽しんでくださるように地域のイベントや祭りに毎年参加しています。



- ・私は、子どもの心身の健康の促進と居場所づくりを目的とした、多様なボランティア活動に積極的に取り組んだ。特に「子どもたちの居場所づくり～勉強と遊びの塾みらい～」及び「子ども&シニアもりもり食堂」での「遊びと工作の会」では、共同代表として携わった。

子どもたちの居場所づくりは、毎月2回、1回2時間、小学生の勉強の支援と遊びを、地元の中高生が運営する取り組みだ。2023年の9月より、場所と時間だけが設けられた状況から始めた。私は運営方針や内容の決定、広告、必要品の調達、進行をリーダーとして全面的に行っている。既存の居場所とは異なった、子ども全員が「心地よくありのままでいられる場所」を方針として、様々な修繕を加えながら、中高生の人材育成を行ってきた。例えば、勉強をしやすいよう勉強計画書やアイスブレイクの時間を作ったり、利用しやすく、質の高い支援をするために公式ラインの作成や、事前・事後アンケートによるフィードバックを行っている。また、活動後にスタッフで振り返りをする時間を設け、自身の考えや思いを共有できる場を作ることによって継続的な中高生スタッフが増えた。

遊びと工作の会は、毎月の第2日曜日に開催している子ども食堂の前に、約2時間子どもたちに工作や遊びを提供するものだ。私は工作内容の企画、チラシの作成、当日の進行を全面的に担当した。工作内容は、身近な材料、技術を必要としない、個人の創作の余地があることを心がけた。当日は他の中高生スタッフとともに、子どもと積極的な会話、交流を行った。結果、アンケートで「丁寧なサポートで小1でもすごく楽しめた」など、ポジティブな声を多くいただいた。

- ・ケニアに住んでいた経験から、子どもたちが十分な教育を受けられない現実を知り、子どもたちが自分の居場所を感じたり、存分に子どもらしさを出せるよう、フリースペースのある駄菓子屋さんや、サマーキャンプ、学童、子ども食堂等でボランティアをしています。
- ・現地の方のサポートをしたり、現状を同じ世代に伝えたいと思い、今年の能登半島地震の復興ボランティアにも今年の夏参加しました。

- ・街のゴミ拾いを行った
- ・町がきれいになるようにと思い、みんなのために、自分が住んでいる地域でゴミ拾いをやった
- ・地元の商店街に落ちているゴミや祭り後の資源ごみを拾う活動をした。
- ・自分の地域や近くの公園が綺麗になるようにゴミ拾いをした。
- ・中学校での活動で学校周辺のごみ拾いをした。

- ・こどもの国夏祭りのボランティアスタッフ

こども店員という小さい子たちが接客をするという企画があり、主にそれのお手伝いをしました。店員をやる子どもたちが少しでも自分の成功体験に繋がったり、未来に対しての前向きな経験になったり、何よりその時間を楽しめるようサポートをしました。（団体報告：保土ヶ谷高等学校ボランティア部4名）

- ・スポGOMI甲子園2024年参加

高校生3名1チームでゴミ拾いを競い合う大会です。大会側の意図とは異なりますが、普段生活している街がいかにゴミで溢れているのかに気づき、そこから日常生活の中での「ゴミ問題」に対しての意識を持って、その意識が他の生徒にも伝染するために参加しました。大会の記録としては神奈川県大会で29チーム中5位となりました。ゴミの種類と量でポイントが変わりそれが順位に反映されるのですが、拾った総重量だけで3位でした。（団体報告：保土ヶ谷高等学校ボランティア部4名）

- ・横浜市放課後キッズクラブのお手伝い

小学校の放課後に小学生たちが保護者のお迎えが来るまで学校内で過ごす時間のお手伝いをしました。

小学生たちが楽しい時間を過ごせるために、一緒にカードゲームや手遊びをしています。

- ・デイケアサービス施設のお手伝い

施設に通っているご年配の方々とお話相手などのお手伝いをしています。施設のスタッフの方々によると、高校生のよう若い人と接することで普段より活気が出て笑顔が増えているとのこと。人生の先輩方と接する中で色々な話を聞くことが出来る一方で、高校生の存在が元気を与えられていることに誇りをもって活動しています。（団体報告：保土ヶ谷高等学校ボランティア部4名）

- ・特別養護老人ホーム太陽の家横濱羽沢の秋祭りのお手伝い

施設の方々の車いすをおしてお祭りをまわるお手伝いや、受付スタッフ等。デイケアサービスの活動と主旨は同じですが、誰かのためにや何かのためにというよりは生徒たちが自分たちのために、普段経験出来ないことを経験させていただくために参加しました。（団体報告：保土ヶ谷高等学校ボランティア部4名）



- ・町に住む人々がよりよい環境で暮らせるよう、茅ヶ崎市の海岸でのゴミ拾い活動とそのスタッフをした。
- ・海岸のゴミ拾い
- ・地球のためにゴミ拾いをした。
- ・海でのゴミ拾いボランティアに参加し、少しでも砂浜に落ちてるゴミを無くそうとした。さらに、海外の"Ocean Awareness Contest"に海のゴミがなぜ無くならないか、そして個人として何ができるのかという動画を作り提出した（審査待ち）。海の環境に対して様々なアプローチをしている。



- ・訪れる人が快適に過ごせるように、また海の生態系を守るために江ノ島の海岸でビーチクリーンを行った。
- ・プラスチック問題に興味があり、去年から今まで月に1度海でゴミ拾い活動を行っています。
- ・海のゴミ拾いを行った。
- ・千葉の海岸でビーチクリーンに参加しています。



- ・多くの人々が必要とする知識やスキルの向上をサポートしたいと思っています。私は中国からの帰国子女なので、今日本にいる中国人の友達に日本語を教えています。その他、外国人や帰国子女高校進路ガイドンスも参加しています。



- ・JICAのイベントにボランティアとして参加しました。「誰ひとり取り残さない」まちづくりの実践を目指し来場者と国際協力やSDGsについての理解を深めた。
- ・クリスチャンの学校なので奉仕活動はたくさん日常にしています。
- ・学校で野外のボランティア活動をしています。(チャリティーコンサート、献血活動)

ユース



- ・7年前の高校1年生の時から、知り合いの修道院のシスター方がやっているフィリピンでのボランティア活動に参加しています。今年からは社会人なので、夏休みの約1週間しか参加できていませんが、日本にいても出来ることをやりたいと思っています。
- ・12月に十分なご飯が食べられていない子供達を対象に、「こども食堂」を計画し、実施しました。廃棄になってしまう前の食材を集め、一緒に調理をする事でフードロス削減へ繋げながら、子供達が笑顔で食を楽しんでもらう事を目的として行いました。また、クリスマス時期という事もあり、子供達の願いを星型の用紙に書いてもらい、クリスマスツリーのボードを完成させました。



- ・主に貧困の子ども達を食の面から支援するため、子ども食堂に関するボランティアに月一回参加しています。ボランティアには社会人になってから参加しているので、時間的にも体力的にも大変な時もありますが、ボランティアの日が仕事の日と被っても、言い訳せず仕事終わりに駆けつけるようにしています。
- ・フィリピンにいる子どもたちのために炊き出し活動を行った。



- ・大学の自由科目(履修してもしなくてもいい科目)として障害者のボランティア活動を行いました。18歳から60代ぐらいの方まで色んな年齢層の人がいて、彼らの活動の支援および話し相手になる活動をしました。障害によっては日々の生活もしくは1人で外で遊ぶのが困難な方もいるのでそういった方のために自分の支援が役に立ったと考えております。
- ・障害を持つ子どもたちと野菜を取るところから料理をするまでのクッキング体験のボランティアをした。
- ・吹奏楽部で近所の老人ホームを周って演奏した。



- ・NPOのボランティアにコアメンバーとして参加し、障害・健常を問わず子どもたちをキャンプへ連れて行き、成長や気づきを支援した。またこのキャンプを行うことで、家族にとってはレスパイトともなり、家族の支援にもつながっていると思う。
- ・2024年8月から健康増進のため、慶應義塾大学SFCコンソーシアムにおいて、子どもたちのために骨密度測定や骨の勉強会を開催するボランティア活動をしています。また、アイヌ民族を含む少数民族の人々のために内閣府や各自治体と共に、差別を受けないためにどうしたらよいかを考えるイベントを学生代表として準備をしています。開催は2025年2月になります。
- ・夏休みにカンボジアの村の小学校に訪れて日本語と英語を教えた。
- ・綺麗になるように夏の高円寺でゴミ拾いした
- ・私は普段、清掃会社にて勤務しており、その中での活動プロジェクトとしまして「清掃ボランティア」の活動がありました。夏祭りのボランティアで仲間と協力し合い、ゴミ箱を段ボールで作成したり、街や祭り敷地内のゴミ拾いをしました。
- ・私がアルバイトをしている某コーヒー店では、3ヶ月に一度のブロッキング活動というものがあります。街をきれいにする為のゴミ拾い活動です。私はこの活動に参加をし、2時間で約2キロのゴミを集めることが出来ました。
- ・街が綺麗になるように、花火大会のあとに両親とゴミ拾いをした。
- ・ゴミ拾い
- ・環境がよりよくなるよう自宅近くの公園の清掃ボランティアに参加した。
- ・渋谷を訪れる人皆が心地良くなるために渋谷のセンターストリート周辺のゴミを綺麗にした。
- ・自分の住む地域の街がきれいになるようにゴミ拾いをした。



- ・私が行ったソーシャルアクションは、地域の清掃活動に参加し、環境問題に取り組んだことです。地元のコミュニティと協力し、街のゴミ拾いやリサイクル活動を行い、環境意識を高めるための啓発キャンペーンにも参加しました。
- ・2024年の6月に、能登半島地震の復興支援のボランティア活動を行いました。私が活動先として訪れた珠洲市は石川県の中でも最果てで、まだボランティア活動の受け入れが始まったばかりだったとのことでした。そのため、崩れてしまった家の修復や処理が全く進んでいなかったり、飛び出てしまったマンホールの修理が追いついていなかったり、津波の影響が半年経っても1月のままの状態が残ってしまっていました。そんな環境下で私にできることが何かを考える時間が多かったのですが、被災地の皆様とお話をしたりなど、自分自身にできることのベストを尽くしました。
- ・地域環境の改善のために定期的にゴミ拾いをしている。
- ・私は、人口減少が進む東日本大震災の被災地を活性化させるため、まちづくりのボランティアプログラムに参加した。私が訪れた宮城県沿岸地域は、2011年に津波で大きな被害を受けた地域。震災を機に若者が県外に流出してしまい、高齢化と人口減少が深刻である。そんな地域に継続的に学生ボランティアを送っているプログラムに参加することで、町の活性化に貢献した。また、同時に震災遺構を巡ったり語り部の話を聞く中で、津波被害の深刻さを知ることができ、今後の災害対策に向けて自分の防災に活かすことができた。
- ・不登校学生児のための、オンライン学習塾「ONLINE SCHOOL C.E.I」を立ち上げました。僕自身中学生の頃、いじめが原因で学校に行きたくない時期がありました。受験のために勉強はしたいけど、一般的な対面の塾に通ってしまうと、会いたくない人とも顔を合わせなければならないことが辛く、自分と同じ思いをしてほしくないと思い、この「ONLINE SCHOOL C.E.I」を友人と共同で立ち上げました。主に中学生が受験に向けて通塾してくれており、現在生徒数は48人。立ち上げて3年目になりました。ただ勉強をインプットするだけでなく、学校に行けず会話を楽しむ機会が少ないからこそ、「対話」の時間を設けることを意識しています。学校でもない、家でもない、第三者の居場所になってくれると嬉しいなという気持ちでここまで活動を続けています。
- ・視覚障害のある子とない子が一緒に歌うコーラスでボランティアをしています。楽譜が見えないため、隣で歌って歌を教えたり、活動の際の誘導などを行っています。障害や健常かどうかにとらわれず、みんなが協力して音楽を作り出す環境づくりに取り組んでいます！
- ・学校についていかれず困っている子どもたち(塾に通うことが家庭の事情などにより難しい子)に無償で授業やサポートを行った。
- ・カンボジアに行って、カンボジアの子供たちのための学校建設のお手伝いをした。
- ・ネパールの子どもたちへ教育支援を行っている国際協力学生団体KIVOの16期代表をしています。物資支援だけでなくネパールの子たちの記憶に残るような体験学習を行っています。また、学生を中心とした日本の方々にももっとネパールを知ってもらうために、国内でKIVOカフェというポップアップイベントを行ったり、フリーマーケットで障がいのあるネパールの女性が作った雑貨などを売ったりしました。
- ・高校の2年間でカナダの現地校で過ごしました。将来、「世界中の子供達に平等に教育の機会を与えたい」という夢を達成するため、数々の教育ボランティアに参加しました。地域のスポーツチームでキッズのコーチをしたり、週に1度、図書館にて日本が好きな子供たちに日本の文化や日本語を教えました。音楽が好きな子どもにはピアノを教え、連弾に挑戦もしました。今までやりたいことや興味のあることに全力で向き合ってきた私にとって、「教育」とは心を豊かにしてくれる1つのツールであり、そして、それは貧困でもジェンダーでも、いかなる理由であっても妨げられてはならないと信じています。日本以外の場所にて教育に関わる活動ができたことは、将来、どこか教育の行き届いていない地域で教育課題を解決するためには必要な経験であり、その経験を高校生のうちにできたことを誇りに思います。世界中の人が、教育を通してワクワクすることができる世界をつくるために、これからもアクションを続けていきます。



- ・NAMIMATIは主にSDGsに関わる環境・社会問題に取り組むZ世代プラットフォームです。関東・関西・東海・シアトル支部合わせて200人以上のメンバーが活動しております。自然と触れ合い体験し、「この自然を守りたい」という内から出る志を持つことによって、個々が成長し、共有しながらこれからのサステナブルな社会を創造します。私はこの「NAMIMATI」というサークルで、定期的にビーチクリーンをしている。
- ・私はSDGsに関わる環境・社会問題に取り組むZ世代プラットフォームであるNAMIMATIに所属しています。自然と触れ合い体験し、この自然を守りたいという内から出る志を持つことによって活動しています。主な活動は湘南地域でのビーチクリーンや渋谷などのシティクリーンなどを行っています。
- ・私が取り組んだソーシャルアクションは"海岸のごみ拾い"です。私は地元藤沢市内に位置する片瀬江ノ島海岸にて不定期にゴミ拾い活動をしてきました。これには、もちろん海洋環境を守るためという意図もありますが1番の想いとしては自信が生まれ育った地を清潔に保ちたいということから同活動をおこなってきました。



- ・毎日海でプラスチックゴミを拾っている。
- ・海を綺麗に保ち、自然環境を守るためにビーチのゴミ拾いを行った。
- ・海の近くに住んでいた時、海辺に流れ着いたゴミを清掃した。
- ・綺麗な沖縄の海をこれからも守っていくためにいろんなビーチクリーンに参加した。



- ・マレーシアに去年行き、植林活動を行いました。人手の足りない地域で、ゴムの木などを植えてきました。また、ホームステイを行ったため、日本の文化を伝えて交流をしてきました。
- ・地元のお祭りで、ごみ拾いを呼びかける「ひろえば街が好きになる」というボランティアに参加しました。袋とトングを持ってお祭りに参加している人に声をかけるのですが、意外と貰ってくれる人もいます。ゴミ袋をもらってくれた時は嬉しかったですし、お祭りという楽しい時間にごみ拾いをやってみようと思う人がいる、という事実嬉しくなりました。



- ・虐待されている子ども達や生きづらさを感じている人達に話を聞いた。居場所を作りたい。
- ・フィリピンの児童養護施設にボランティアとして渡航し、現地のネグレクトを受けた子どもたちと一緒に遊んだり、愛を分け与えてあげることができた。
- ・「自分の想いを言葉にすることが苦手」「自分の想いや考えに自信がない」「周りの目が過度に気になる」そんなことから生きづらさを感じている子どもたちのために、現在はジャーナリズム大学院の授業の一環として「自己肯定感を高める教育に特化した保育園」を取材し、記事にすることで私自身も教育について学んでいる。また以上の経験を糧に、直接高校に出向して「地域課題の解決」という課題を生徒たちに提示することで「成功経験」を積んでもらうためのサポートボランティアをしている。以上のアクションをとおして、子供たちには「一人ひとり違って当たり前」ということを認知してもらい、「ありのままの自分でいいんだ」という自信を抱いてもらえたらと考えている。また、相手の個性や多様性を尊重する「思いやりの気持ち」や「想像力」を育み、少しでも多くの人々が「生きやすい」と思える社会の形成に貢献できることを望んでいる。
- ・2023年5月27日と9月30日に、群馬県高崎市にある『子ども食堂やっちゃんち』にて、歌のボランティアをしました。「子ども達に楽しんでもらいたい！」「お父さんお母さんたちに少しでも癒されてもらいたい！」その一心で、子どもに人気のアニメの曲を歌ったり、ミュージカル曲を振り付きで歌ったり、誰もが知っている曲を手話付きで歌ったりしました。子供たちやお父さんお母さんが、みんな笑顔で一緒に体を動かしながら聴いてくれ、とても幸せな空間になりました。この活動を続けていきたいと思いました！



- ・輪島で被災者の話を聞く傾聴ボランティアを行った。東日本大震災のとき、私は福岡県にいた11歳で、後で振り返って何もしなかったことを後悔していました。今度は何が何でも参加したいと思い、手当たり次第にボランティア募集へ申込み、無事にゴールデンウィークいっぱい行くことができました。離れるときも被災者の方々が喜んでくれて悲しんでくれて、話を聞くだけでも役に立てることもあるんだと知った。



- ・人吉の災害や、熊本地震を身をもって経験したことで、悲惨な状況から助けを必要としている人たちが大勢いることを目の当たりにしました。ニュースで見ているだけでは居ても立っても居られなくなり、個人的にボランティアをはじめ、ボランティア部を発足し人の助けになることの意義をみんなに知ってもらいたいと思い、ボランティア部を発足し、学校内でNHK海外助け合い募金、トルコ・シリア大地震緊急募金、熊本市助成金事業で点字絵本制作し、盲学校への寄付を行いました。

その他



- ・みんなの東京クリーンアップ大作戦
2024年9月21日～10月20日をメイン期間とし、東京のガールスカウトが東京各地の活動エリアにて清掃活動を実施中。地域の親子や学生、成人など会員外の方々へも広く参加を呼びかけ、現在1,277名が参加予定。海ゴミと私たちの暮らしとのつながりを知り、海へ影響を及ぼさず海の未来を守るためにと、地域の皆さんと身近な街のゴミを減らすことから行動中。（団体報告：一般社団法人ガールスカウト東京都連盟、52名）

政策提言

地域社会の課題解決のために、首長や議員、議会に対して
解決策などの提案を行うこと。

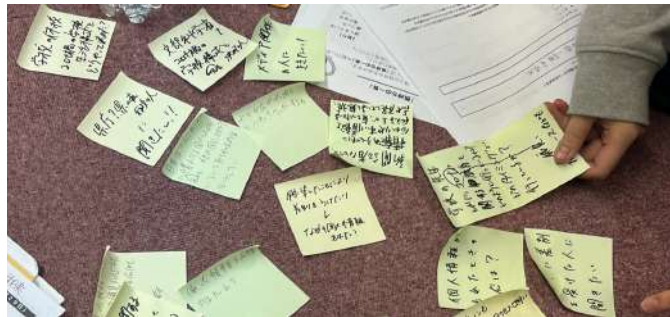


山口友那



アクション実施者

- 人数 16
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 神奈川県



取り組んだアクション

実施内容

フリーザチルドレンジャパンと国立生育医療センターとEverybeingの3団体のコンソーシアムが主催しているティーンボイスプロジェクトで子どもユースメンバーとして活動しました。私がコロナ禍で情報不足やデマにより感じた疎外感を感じる人が、将来、新型のウイルスが再度蔓延した時減らせるよう、同じような目標を掲げている子たちで集まり政策を作成しました。

- 社会課題 コロナ禍の子どものウェルビーイング
- 支援先
- 実施期間 2024年3月から現在まで
- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

私たちはアンケートを実施して、それらを通して子どもたちが確実に正確で、分かりやすい子ども達にとって分かりやすい情報へのアクセスがあまりできていなかったことに気づきました。そこから提言をzoomで話し合って作り、こども家庭庁に提言を提出することが出来ました。



困難だったこと/次回に活かすこと

メンバーのみんなが離れたいた場所に住んでいたためzoomで会議を行なっていました。そのため予定を合わせるのが大変で、なかなか思うように提言作成を進めることが出来ない時がありました。次からはzoomよりも大変になってしまいますが、メッセージなどをもっと有効活用していきたいと思います。



これからアクションを起こす人へメッセージ

アクションを起こすということはとても勇気があることであり、また起こそうと思っても周りの目が気になってなかなか起こせない時があると思います。ですが周りには自分が思っているよりサポートしてくれる大人や共感してくれる仲間がいます。自信を持って自分がやりたいアクションを進めてください。

小学生



- ・工事をしている大田区の学校で工事の人がタバコを吸っている人がいました。
みんなのために学校の中でタバコを吸うのをやめさせようと決意し、努力を尽くしました。

高校生



- ・コロナで生きづらい思いをした学生の声が届けるため、政策提言を行った。



- ・こども家庭庁や政府の方たちに政策提言を出した

資金調達

社会問題や課題のために、
街頭募金やクラウドファンディング、古本や切手などの現金化などで
お金を集めて必要としているところへ届けること。

ボーイスカウト東京北1団 菊一 真人



アクション実施者

- 人数 35
- 区分 中学生
- 活動地 東京都



取り組んだアクション

実施内容

2024年1月28日、ボーイスカウト東京北1団はガールスカウト東京21団と合同で、地元JR赤羽駅様の協力の元、駅構内で能登半島地震救援募金活動を行いました。3時間の駅前募金活動で10万円以上の義援金が集まりました。日本赤十字災害義援金へ全額寄付しました。大切な方をお亡くしになられた方、お怪我をされた方、被災し避難生活をされている方に役立てて頂きたいです。

- 社会課題 災害
- 支援先 日本赤十字社災害義援金
- 実施期間 2024年 1月 28日
- 数値的成果

お金の寄付	100,000 円
モノの寄付	個
ボランティア時間	105 時間
インパクト人数	1,000 人



工夫したことや達成したこと

大きな声で道行く人々に気持ちが届くように心を込めた。小さなお子さんも募金してくれて、その時には募金箱を下げてお金を入れやすくしてあげました。3時間の駅前募金活動で10万円以上の募金があつまりました。みなさんが少しでも能登半島地震で被災された方々へ寄り添いたいと考えていることが大きな金額になって驚きました。



困難だったこと/次回に活かすこと

場所を分散してタイミングを逃した人ももう一度チャンスがあるようにしたい。もっと知り合いにも事前にお知らせして来てもらうのも良いと思った。来れない人で知り合いに募金を託してくれる人もいたので、事前の宣伝でもっと大きな額を集められると思います。



これからアクションを起こす人へメッセージ

小さな事でも必ず誰かに届くと思うのでまずは行動しましょう。ボランティア活動はやり慣れないとハードルは高いが、やった後の達成感は素晴らしいので、是非進んでやってみて欲しい。私はボーイスカウトのお陰で毎回世界の災害支援募金をやる機会があるので嬉しい。

鈴木真優



アクション実施者

- 人数 1
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 東京都



取り組んだアクション

実施内容

- ・能登半島地震の被災地の子供達のために高田馬場駅前にて街頭募金を実施。
- ・カンボジアの子供達のため、認定NPO法人「国境なき子どもたち」と協力し、現地の子供達の教育支援使える資金を集めるためバースデードネーションの立ち上げ。
- ・お金の心配をせずに教育や食事に手が届くよう、子ども食堂チューターの学生団体の立ち上げ

- 社会課題 教育問題、不平等問題、地域再生
- 支援先 国境なき子どもたち
- 実施期間 2024年1月4日～10月3日
- 数値的成果

お金の寄付	120,802 円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

募金してくださる人の年齢層の決定や、声かけの内容、どの場所でやるかなどの目標に対するステップを工夫した。今年は6万円ぐらい募金で集められたらなと思っていたが、それを達成することができ、さらに目標の2倍の12万を集める事ができた。また、SNSなどで自分の活動を広めることができた。



困難だったこと/次回に活かすこと

街頭募金を実施するにあたって警察署とのコミュニケーションや準備不足などが困難で、実際の計画よりかなり遅れての実施になってしまった。自分のタイムマネジメントがあまりできなかくおしゃべりナイトやミーティングに安化できなかった。オフィスも少し遠くて時間が間に合わないことで諦めたりしたのでそこが困難な点だった。



これからアクションを起こす人へメッセージ

私なんかできるかな やってみたいけど勇気が出ない、とか何から始めればいいのかわからないって人も多いと思います。私もそうでした。でも、身近なことからできることはいっぱいあるし、ゴミ拾いとかにフラッと参加してみたら素敵な仲間との出会いがあったりするので是非重く考えずに気軽にアクションをとって欲しいです！ 一緒により良い未来のために頑張りましょう！



アクション実施者

- 人数 11
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 栃木県



取り組んだアクション

実施内容

コンゴ共和国のため、コンゴ支援の募金が含まれているフェアトレードチョコレートを学校祭で2日間にわたって販売した。販売するにあたって、みんなで協力して価格設定や販売場所、当日のシフトやどのくらいのチョコレートを販売するかを決めた。当日は、FTCJのこれまで起こしてきた活動が載っているチラシなどを置いて、団体の説明なども行った。

- 社会課題 貧困や労働
- 支援先
- 実施期間 2024年11月2日～11月3日
- 数値的成果

お金の寄付	58,030 円
モノの寄付	個
ボランティア時間	132 時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

フェアトレードチョコレートを販売していることを目立たせるために1箇所だけではなく2箇所で販売をした。そのことによって、予想していた数より多く販売することが出来た。また、シフト制で役割を決めていたので当日はシフト通りにスムーズに活動することが出来た。



困難だったこと/次回に活かすこと

1日目は雨が降っていたので声が通りづらくて、外ではあまりチョコレートを販売することが出来なかった。次回は、雨の時は室内でチョコレートを販売するなど、臨機応変な行動をしたいと思います。そして、テント内だけで販売するのではなく、自分から外で声がけすることも大切だと思うので次回からはそうしたい。



これからアクションを起こす人へメッセージ

長い時間行なう学校祭でほんとにお客さんは来て売れるかな？など心配していましたが、みんなの助けもあり杞憂で終わったので、仲間の大切さに気づきました！！これからの活動でも周りにいる仲間を沢山巻き込んで楽しみながら活動しましょう！！



アクション実施者

- 人数 2
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 群馬県



取り組んだアクション

実施内容

私たちは2024年に、ルワンダで国際協力インターン、タンザニアで医療インターン留学をしました。2025年3月、コンゴ東部の紛争激化を受けた緊急支援を目的に、学校のアカデミックフェアで東アフリカ留学報告のプレゼンとともに、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンのフェアトレードチョコレートと留学先から持ち帰ったお茶をセットにした寄付販売を実施しました。支援金は、FTCJコンゴ民主共和国南キブ州地域開発プロジェクト・ディレクターのミシエル・チクワニネさんを通じて、東部のゴマやカブ地域に届けられます。現在のコンゴ紛争ではルワンダの関与が指摘され、両国の関係悪化が問題視されています。この問題について私たちも理解を深めたいと考えています。

- 社会課題 紛争問題
- 支援先 コンゴ共和国東部ゴマ、カブ
- 実施期間 2024年9月19日～2025年3月23日
- 数値的成果

お金の寄付	17,436 円
モノの寄付	個
ボランティア時間	20 時間
インパクト人数	約1,000 人



工夫したことや達成したこと

それぞれ留学先から持ち帰ったアフリカティーをフェアトレードチョコとセット販売しました。また、同じようにそれぞれ持ち帰ったアフリカ布をディスプレイやラッピングに使って、現地の文化を感じてもらえるよう工夫しました。仕入れられたチョコは30個と少なかったのですが、紅茶のみでも販売して募金も集まりました。



困難だったこと/次回に活かすこと

コンゴの紛争激化について来場者に十分に説明できなかったため、事前に調べて情報を整理し、チョコやお茶に寄付金の使途メモを添えたり、ブースに紛争に関する新聞記事を置いたりすると良かったと感じました。SNSでの活動報告には、新聞記事を掲載しました。



これからアクションを起こす人へメッセージ

私たちは地方に住んでいますが、オンラインでプロジェクトメンバーとやり取りしてサポートを受けながら学校販売を行いました。私は中学3年生のときに初めてChange Makers Fesに参加しました。まずは、Fesに参加してみませんか？



Free The Children Japan 熊本グループ



アクション実施者

- 人数 10
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 熊本県



取り組んだアクション

実施内容

熊本市新市街で開催された「第13回くまもと高校生フェスティバル」に団体として参加し、フェアトレード商品（リサイクルバッグやドライマンゴー、コンゴ民主共和国の農業支援寄付つきチョコレートなど）を販売しました。また、FTCJ熊本グループが支援する子ども食堂「キッズレストランいーと」の子どもたちへのエコバッグプレゼントのため募金活動も行いました。ステージではグループの紹介や児童労働の実態、子どもの権利についての啓発活動も実施しました。

- 社会課題 子どもの権利、児童労働問題
- 支援先 キッズレストランいーと
- 実施期間 2024年11月17日
- 数値的成果

お金の寄付	7,600 円
モノの寄付	個
ボランティア時間	80 時間
インパクト人数	多数 人



工夫したことや達成したこと

多くの学校が出店していたため声が届きにくい場面もありましたが、歩きながらの呼びかけや友達と連携した呼びかけなど工夫しました。フェアトレードについて知らない人が多いと感じたため、短い説明も添えました。コンゴの農業支援寄付つきチョコレートは最初は売れ行きが悪く、「募金型」に変えて寄付を募り、お礼にチョコを渡す方法に変更すると、多くの人が協力してくれました。募金では「誰のために募金するのか」を分かりやすく伝え、大きな声で繰り返し呼びかけた結果、目標金額を達成できました。ポップも派手で見やすく工夫しました。



困難だったこと/次回に活かすこと

大きな困難はなかったものの、次回は寄付付きチョコレートやドライマンゴーだけでなく、その他のフェアトレード商品の呼びかけを強化したいと考えています。フェアトレード商品を手に入る人は少なかった一方で募金への協力は多く、返礼品付き寄付としての認知を広げる工夫が必要だと感じました。また、通行者が「誰のための活動か」を瞬時に理解できるように、事前にチラシやパンフレットで情報提供することも効果的だと思います。



これからアクションを起こす人へメッセージ

- ・特に児童労働などは、日本では聞き馴染みがなく、無縁なような言葉であるがゆえに何か行動を起こす必要性を感じにくいかもしれません。しかし、他人事ではなく自分事で考えられる力はとても大切だと考えています。海外の問題だと捉えるか、地球の問題だと捉えられるかの違いがアクションを起こせるか起こさないかの違いだと思います。
- ・自分たちが一生懸命活動することで、周囲の人々もそれに協力してくれるようになり、活動の輪が広がっていくのだらうと、今回の活動を通して感じた。自分が動いたところで変わらないと思うのではなく、小さなことでいいから何かやってみようと思うことが大事だと思う。
- ・見ず知らずの人たちのために行動しようと思うこと自体が素晴らしいと思うので、あまり思い悩まず、助けたい相手のことを思い、最善を尽くすことができれば自分が納得のできる活動になっていくと思います。頑張ってください！



アクション実施者

- 人数 20
- 区分 中学生・高校生・大学生
- 活動地 全国



取り組んだアクション

実施内容

フェアトレードチョコレートの企画・販売を中高生メンバーが主体となって行いました。インドの貧困家庭の子どもたちの教育支援を目的に、販売価格の41%が現地NPO法人リムラスクールへ寄付されます。99%フェアトレード認証の原料を使用し、価格設定や商品デザイン、キャッチフレーズもメンバーが考案。文化祭や地域のお祭りなどで販売し、合計778個を完売しました。

- 社会課題 教育格差、貧困、児童労働
- 支援先 インド・リムラスクール
- 実施期間 2023年11月~2024年6月
- 数値的成果

お金の寄付	106,065 円
モノの寄付	個
ボランティア時間	300 時間
インパクト人数	多数 人



工夫したことや達成したこと

インドの子どもたちへの想いを込めて価格設定や商品名、デザインを工夫し、積極的に意見を出し合いながら企画を進めました。販売では、プラカードを持ち大声で「フェアトレード商品」ということを前面に押し出し移動販売をしたのが上手いき、目標を超える売上を達成しました。

寄付先や団体の説明も丁寧に行い、最初は売れ悩んだけれど、完売しました。販売以外でも日程調整や金銭管理などを協力しながら役割分担し、メンバー全員で成功を実感できました。意見をまとめて一丸となり、企画から販売まで取り組めた貴重な経験となりました。



困難だったこと/次回に活かすこと

メンバーが多く全員の意見をまとめるのが難しく、目的によって価格やデザインが変わるため、中高生だけで企画を最後まで進めるのは大変でした。次回はグループに分けて効率的に進め、フェアトレードを広めたいと考えています。また、議論が進まないこともあったため、次回は司会者を決めスムーズな進行を目指していきたいです。

フェアトレード商品の価格が高く、売るのが難しかったものの、背景を説明し積極的に声をかけることで理解者が増えました。口コミや親のつながりで完売でき、次回は接客や販売記録にも力を入れます。



これからアクションを起こす人へメッセージ

- ・初めは、アクションを起こすことに不安があるし、勇気のいることだと思います。でも、アクションを起こした後はとても達成感を感じるし、それは絶対、社会問題解決に繋がっていきます。誰にでも世界を変える力がある！
- ・最初は、自分のやっているアクションが上手く行か不安になると思うが、取り組み始めている時点で必ず自分の糧になるから失敗やを恐れたり不安になったりする必要はないと思います。まずは何かやってみることがすでに1つの成功したアクションだと思います。
- ・支援に繋がると言われてもなかなか買ってくれない人（協力してくれない人）もいるでしょう。しかし少しでも人々の意識を変えることにも意味があると思います。周りの雰囲気になかなか難しい時も自分に出来ることを1個探して世界を変えていきましょう！
- ・自分一人では成し遂げられなかったであろう大きな挑戦も、仲間を見つけて協力し合うことができれば必ず成功に繋がります。まずは想いを発信し、色々調べてみるのところから始めてみましょう！
- ・Together we can change the world!

小学生



- ・マクドナルドや動物園などに設置されている募金箱などに、少しでも役に立てればと思いよく募金する。
- ・学校のボランティア活動の一環で、自分の食事を我慢して、その分を募金に回す活動をした。
- ・出演舞台を通して、世界の難民の方に向けて募金活動をしました。



- ・キッズゴスペルクワイアの一人として、こども食堂を支援する目的のチャリティーコンサートに出演し、自らも募金をした。



- ・盲導犬育成の募金活動をしました。目の見えない方が盲導犬を信頼し、お互いに絆が出来、外へと出掛けられる事がどんなに素晴らしい事かと思い、とても気になっていました。そんな時さいたま新都心駅にて募金活動に参加できるとお話を頂き参加させて頂きました。



- ・学校でベルマーク集めをしています。



- ・震災や災害で困ってる人たちのために、コンビニやスーパーの寄付募金をお小遣いで募金しました。
- ・能登半島地震の被害にあわれた方のために、募金活動をしました。
- ・商業施設にあった地震の被災地、盲導犬や保護犬への募金箱に募金をした。



- ・緑の羽募金活動に参加して、国内外の森林整備や緑化活動、災害復旧支援、森林環境教育などに貢献した。
- ・学校のボランティア活動の一環で、自分の食事を我慢して、その分を募金に回す活動「古着deワクチン」を利用して寄付をした。



- ・飲食店やコンビニのレジ前にある募金箱にたまに募金をしています。
- ・日々スーパーで募金をしています。
- ・募金活動。ベルマーク活動。ペットボトルキャップを回収してワクチンに代える活動。
- ・募金活動をみかけたら、募金します。

中学生



- ・赤い羽根の協同募金
- ・お金がなく、困っているアフリカの人々に洋服を寄付した。学校で貧しい子どもへ募金を集めたいので、お小遣いの半分を募金した。
- ・フィリピンのスタディツアーに参加し、貧困や性加害を受けた子どものことについて考え、寄付をした。
- ・自分の古着を寄付してそのお金でワクチンを作り、発展途上国の国の子どもたちに届ける。



- ・学校で自分の要らなくなった物を売買するという行事に参加し、集まったお金は困った方のための施設や病院などに寄付させていただきました。
- ・学校の委員会（福祉委員会）でエコキャップ運動をした。ユニセフ募金の実行委員をやった
- ・ペットボトルキャップをJCVに寄付して、ユニセフと連携しそのお金でワクチンを支援国に届けた。



- ・インドの教育支援のためにフェアトレードチョコレートの販売をした。
- ・また、父がペルー人で、母はペルーの帰国子女ということから、ペルーの繋がりがあり、毎年一回チャリティコンサートを開催し、そこで集まった収益をペルーの働く子どもたちに奨学金として利用してもらうために送金している団体で、物販を担当してまして、売上の1部を寄付してます。



- ・世界中の貧困に悩む子どもたち、特に子ども兵のために、学校の生徒会で募金活動を行なった。



- ・学校で募金をした。

中学生（続き）



- ・緑の募金活動をした。
- ・保護猫犬の募金をした。24時間テレビに募金した。



- ・コンビニのレジ前にある募金箱におつりを入れられるときはいれています。

高校生



- ・フィリピンの孤児院で暮らす子ども達と異文化交流をし、子供達の幸せな暮らしに少しでも貢献するため、お金を寄付した。
- ・ウクライナの方への募金活動を行いました。
- ・貧しい子ども達のためにホームセンター前で募金活動を行い、3万円寄付した。
- ・フェアトレードチョコの販売を行った。難民の方たちが幸せになってほしいという思いでコンビニで難民支援の募金をした。



- ・発展途上国の人々がポリオのワクチンをうけることができるようにするため、駅でポリオ募金した。
- ・世界中の子ども達が安全で健康に成長できるように、ユニセフ等の募金に参加した。
- ・ペットボトルのキャップを回収し、ワクチンに変えるための回収活動した。



- ・難民キャンプで暮らす子ども達のために、教科書や文房具を支援した。難民キャンプで暮らす子ども達のために、農家さんと協力して、米、野菜、フルーツを販売して、その利益を全額支援金とした。



- ・戦争の被害に遭っているウクライナの難民のために平和を呼びかけるステッカーを販売する形で、募金活動を主催した。



- ・コンビニで現金のお釣りが少しだけあるときは、少額のときですが、いつも募金箱にいれてます。

ユース



- ・ワンクリック募金を貧困や環境変化への手伝いのために毎日行っていた。
- ・アフリカの困っている人のために、1,000円募金した。
- ・貧困で困ってる人々の生活を豊かにするために募金をしました。
- ・フィリピンヘスタディツアーで行ったことをきっかけに、フィリピンの子もたちにエネルギーを届ける目的で20歳の誕生日の記念に、バースデードネーションを立ち上げ、寄付しました。
- ・ユニセフへ募金した。



- ・ペットボトルのキャップを貯め続けて車椅子を寄付した。
- ・ペットボトルのキャップを途上国のこどもたちのワクチンに変える取り組みに参加し、地域の企業や団体、お店等に協力依頼をして、ワクチン100人以上を集めた。
- ・去年の高校の文化祭で私が会長をしていた生徒会で1～3年生までが出した出店の売上を寄付することを企画し、15万円を赤十字社の海外救援金に寄付した。



- ・私は国際協力学生団体KIVOで活動し、主にネパールの農村地域の教育支援プロジェクトに取り組みました。このプロジェクトでは、現地の図書館の設立と本の寄贈を目標に掲げており、私は資金調達と広報活動を担当しました。

ユース（続き）



- ・マクドナルドでモバイルオーダーした時に、マクドナルドハウス（入院をしている子どもの両親が、家が遠く帰れない場合に泊まる施設）に募金をしている。
- ・私は、日本だけでなく世界中の人達がみんな差別・偏見なく過ごせる世の中を作りたいです。その為に、NPO法人LES WORLDの世界の孤児院の子ども達を日本に招待し、みんなで一つの形を作って公演を行う活動へ寄付をしたり、実際に公演に足を運んで、世界中の方達と涙を浮かべながら肩を組んで歌いました。肌の色・話す言葉・目の色全て違うがその場では一切の差別などなくて、「笑顔」だけで繋がれる世界観。私は今の職場を辞め、今後NPO法人LES WORLDの活動に医療者として携わり、世界を一つに繋げたいく活動をしていきたいと考えています。
- ・研究を行いたい、特に地方に暮らしなかなかなか機会を得ることができない高校生向けに、参加費や交通費を奨学金制度を設けたプログラムを半年間行った。（2023年2024年どちらも）



- ・募金箱を見つけたら必ず募金するようにしている。駅前で能登半島地震の募金をしている方がいたので両親と募金をした。
- ・被災して不自由な生活を送っている人のために募金をした。
- ・赤い羽根募金に協力させて頂きました。
- ・災害を受けた地域などへの募金。



- ・海洋プラスチックの問題を啓発するため、海ごみのアクセサリーをつくり販売し、売り上げを寄付した。



- ・森林を将来に残すために支援している公益社団法人の募金箱がコンビニにあったので、なかなか直接足を運んでの活動が出来ない分、少しでも役に立てればと思いお釣りを募金した。



- ・ウクライナ支援の街頭募金に参加した。

その他



- ・TOKYO Girl Scouts Coffee
東京都連盟の中高生のガールスカウトがプロジェクトメンバーとなり、株式会社ミカフェートの協力を得て女性生産者を応援するためのサスティナブルコーヒーを商品化、販売中のプロジェクト。コーヒーを通じてコロンビアの女性生産者と繋がり、彼女たちが心を込めて作った美味しいコーヒーをお届けすることで、売り上げの一部を女性生産者グループへ寄付する取り組み。2024年3月20日から販売を開始し、現在の売り上げは2,750セット。（団体報告：一般社団法人ガールスカウト東京都連盟、52名）

物資調達

被災地支援や途上国支援のための衣料品の収集や、
フードドライブ、ヘアドネーションなど、
必要なものを必要としている人へ届ける活動



アクション実施者

- 人数 10
- 区分 小学生
- 活動地 奈良県



取り組んだアクション

実施内容

ハロウィン・フードドライブを実施しました。去年、夏休みの課題図書で、フードドライブを知り、日本を、少しでも救っていくために身近でやってみようと思い、学校で許可を取り、まず、ぼくも知らなかったフードドライブという言葉を広め、浸透させていった。今回は、その3回目の開催で、日程調整が上手くいかず、直前の開催連絡になり、集まりが少し悪かった。しかし、生駒市社会福祉協議会の方々から、食べる事にも困っている人が「いつも、『こんなに、もらっていいんですか?』と言われ、顔が表情が明るく変わり、受け取り帰られる方もいっぱいいらっしゃるんですよ。」という貴重な言葉などを頂いて、それがまた、やる気や、良い考えを、わき上がらせてくれたと思う。

- 社会課題 貧困、食品ロス
- 支援先 生駒市社会福祉協議会
- 実施期間 2024年10月28日～10月30日
- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	約19 kg
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

保護者への一斉メールが無かったので、1日目の、給食の放送で、帰宅後、児童が伝えるように、TRASH OR TREATのニュアンスで、「ロスを寄付に」と魔法のようなキーワードにして、帰宅したらおうちの人に伝えて下さいと放送したこと。



困難だったこと/次回に活かすこと

学校と、市役所との日程の調整。



これからアクションを起こす人へメッセージ

まず、そのアクションについて深く知り、身近なところで広めてみるということをした方が良い。自分も知っていなかったなら、みんなは、きっと知らない。広めると、同情してくれる人もいる。それから、実践したら、予定より上手くいくはず。もしそうでなくても、やったという実績は、素晴らしいものであり、そこから、改善していけば良い。とりあえず、挑戦することが大切。



ボランティア愛好会



アクション実施者

- 人数 13
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 東京都



取り組んだアクション

実施内容

ハロウィン・フードドライブを実施しました。主に宣伝と回収班、届ける係に分かれて活動していました。私は食品の回収班だったのですが、想定以上に多くの食品が集まって驚きました。また缶詰や乾麺から凍らせて食べるようなゼリーまであり、バリエーションが豊富でした。私たちはボランティア愛好会として校内から課外活動まで幅広くしているのですが、食品を回収したことがなかったため新鮮だったので面白かったです。

- 社会課題 貧困、食品ロス
- 支援先 豊洲文化センター
- 実施期間 2024年10月28日～10月30日
- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	15.5 kg
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

学校内の集会やポスター掲示などをして宣伝したことで、結果的に3日間で約15kgの食品を集めることができたこと



困難だったこと/次回に活かすこと

想定以上にたくさんの食品を生徒が持ってきてくれたので回収場所に置いていたかごから食品があふれていた。幸い、かごからあふれていた食品は紙袋の中にいれられたものだったので地面につくことがなかったが、今後このようなことがないように少し大きめのかごを用意したいと思う。また食品を回収する期間をこれからはもう少し長くしてもいいと思った。



これからアクションを起こす人へメッセージ

はじめはボランティア活動と聞くとハードルが高いように感じやすいと思いますが、困ったことがあれば学校の先生やボランティアプロジェクトの担当の方に聞くと答えてくれるので、心配しなくて大丈夫です。まずはおおまかな予定を立てるところから始めるといいと思います。

小学生



- 本やおもちゃや服を児童施設に寄付した
- 自分がはけなくなったりつや着れなくなったふくを外国のほしい人へ送ってもらった。
- 貧困をなくすため、平等の世界にするために服を寄付したり、食べ物を分け与える。



- うちの近くのファミリーマートで、いつもフードバンクをしているので、お菓子やインスタントフードを寄付しました。



- 去年、幼稚園の時から伸ばしていた髪を30cm以上切ってヘアドネーションをしました。最初は七五三の為に伸ばしていたけれど、途中からこの髪の毛が誰かの為に役立つのなら、とヘアドネーションの為に伸ばしていました。
- 2年前(小学2年生の時)にヘアドネーションをしました。いつも綺麗な髪の毛だねと言ってもらえるので、この私の髪の毛が誰かの役に立ったらいいなと思い、バツサリと髪を切って生まれて初めてショートカットになりました。
- 小児がんの方にウィッグを届ける活動に賛同し、ヘアドネーションを行い髪の毛を30cm寄付しました。
- ヘアドネーションをしました。
- ヘアドネーションしました。
- 小学3年生の頃、学校で様々なボランティア活動がある事を知りました。私も何か役に立つことがあれば…と思い、その頃も今みたいに髪の毛が長かったので、30cmのヘアドネーションをしました。
- 6歳、9歳でヘアドネーションをしている。今もヘアドネーションのために髪を伸ばしている。



- サイズアウトして着られなくなった洋服は、友達の弟達に好みに合わせてあげています。
- 洋服のリサイクルをして発展途上国へ服を寄付。
- お下がり洋服やおもちゃ、本などは捨てずにお友達にゆずっている。

中学生



- ずっと伸ばしてていた髪を、切ってヘアードネーションしました。
- 小児がんの子どもたちのためにヘアードネーションをした。
- ヘアドネーションをしました。



- いらなくなった服をブックオフに売ったり、ユニクロのリサイクルボックスに出した。
- 不用品でまだまだ使えるものであれば、捨てるのではなく、海外の洋服やおもちゃを必要としている子どもたちへ寄付する団体へ持っていきました。

高校生



- 難民の人たちのために服のカプロジェクトを学校で行い、服を送った。
- 使わなくなった上履きを靴を履けない難民に寄付



- ヘアドネーションをした。
- ヘアドネーションもしたいと思っていて今髪を伸ばしています。
- 過去に2回ヘアードネーションをさせてもらいました。



- アフリカの小学生のためにランドセルを寄付しました。
- 学校が主催しているマレーシア研修旅行にて、無国籍児童が集うスラム内の学習塾に訪れ、塾の運営者に服や文房具を寄付した。

1 貧困をなくそう



- ・ 貧しい地域や国の、裸足で生活せざるを得ない人達のための靴の寄付。
- ・ 食に困っているホームレスのために、イベントで残った食べ物を集め大学の先生と配り回りました。
- ・ カンボジアの子どものために募金活動。NPOのプログラムに参加し、カンボジアの孤児院で子供と交流、服を寄付しました。
- ・ 服が買えない子どもたちのために自分が着ることができなくなった服をNPO法人に寄付した。
- ・ 制服が買うことが難しい後輩に制服を寄付した。
- ・ コンビニでお釣りをレジに設置されていた募金箱へ入れ募金した。

3 すべての人に健康と福祉を



- ・ 成人式後に髪を切る人が多いことに目をつけ、自分の成人式のタイミングで、自身の髪のヘアドネーションと、それに合わせて啓蒙活動を行い、テレビやネット記事に取り上げて頂いた。それから3年後の今年もまたヘアドネーションを行った。事故や病気で髪を失った方々の力に少しでもなれるように、これから一生活動を継続したいと考えている。
- ・ ヘアドネーションをしました。自分は何となくで髪を伸ばしていましたが、テレビでヘアドネーションというものがあること、髪の毛を必要としている人がいることを知り、やってみようと思いました。私が今持っているものが誰かの役に立つかもしれないなら、と思い、寄付させていただきました。今も髪が長くなったので、ヘアドネーションをしようかなと考えています。

5 ジェンダー平等を促進しよう



- ・ 経済的理由やその他理由で生理用品の購入が難しい人の為、大学の化粧室に無料生理用品を常設する活動を行い、女性の権利として生理のタブー視からの脱却を狙ってアクションをした。

12 つくる責任 つかう責任



- ・ 着なくなった服を寄付しました。いらないとされていた服を自分も買い取りました。
- ・ いらなくなった服は捨てるのではなく洋服屋さんにあるリサイクルボックスに入れていきます。

啓発活動

イベントでのパネル展示、フェアトレード商品の販売、
ワークショップやイベントの企画・開催など、
解決したい社会課題を周りの人たちに知ってもらうための活動



アクション実施者

- 人数 71
- 区分 小学生（報告：教員）
- 活動地 福岡県



取り組んだアクション

実施内容

学校の授業で児童労働の問題やフェアトレードについて学んだ子どもたち。その中で、児童労働の実態を多くの人に知ってほしい、フェアトレードの商品をたくさんの人に手に取ってほしいという思いが生まれました。そこで、子どもたちが話し合い、学校でフェアトレードバザーを開くことになりました。ポスター作成から、商品ポップの作成、販売ブースのセッティングなど、すべての準備を子どもたちが協力して担い、本番も大成功に終わることができました。

- 社会課題 児童労働

- 支援先

- 実施期間 2024年～2025年

- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

ただフェアトレードの商品を販売するのではなく、プレゼンターチームなどをつくって、来場した保護者の方々に、児童労働やフェアトレードについて解説するプレゼンチームもいて、バザーがとても意義深いものとなりました。商品もほぼ完売することができ、子どもたちは達成感を感じていました。



困難だったこと/次回に活かすこと

本当は地域の方々にお知らせもし、多くの来場者にお越しいただけるような形をとりたかったのですが、子どもの安全管理の観点から難しいところもありました。今回のバザーを通して、どれくらいの商品数が妥当かはイメージが湧きましたので、次回以降に参考にしていきたいと思います。



これからアクションを起こす人へメッセージ

今回は小学生の実践でした。しかしながら、小さな力でも世界の問題に立ち向かうことができるという、実感を子どもたちは持つことができたと思います。迷っているなら、まずは一歩を踏み出すことから始めることが大切なのだと改めて子どもたちの姿から教えられたように思います。



アクション実施者

- 人数 20
- 区分 小学生（報告：スタッフ）
- 活動地 福岡県



取り組んだアクション

実施内容

世界の様々な問題についてみんなで考える機会をつくるために、月に一度、ドキュメンタリー映画の上映会を行った。映画の内容をより深く理解するため、小学3年生から6年生の子どもたちが中心となり、問題解決に向けて取り組んでいる地元の企業や団体などへの取材や調べ学習を行い、スライドにまとめて発表したり、展示発表をしたり様々なワークショップを行った。年間で延べ300名以上の観客が来場し、様々な問題提起を行う良い機会となった。子どもたちの発表や行動を見たことにより、問題を自分ごととして捉え、ビーチクリーン活動、フェアトレード商品の購入などの社会的行動を起こした人も多くいた。収益の一部はパレスチナ子どものキャンペーン、能登半島地震の被災者、WWFなどへ寄付も行った。

- 社会課題 海洋プラスチック問題、貧困問題、児童労働、戦争、フードロス問題など
- 支援先 パレスチナ子どものキャンペーン、WWF、能登半島地震など
- 実施期間 2023年12月17日～2024年11月24日

数値的成果

お金の寄付	39720 円
モノの寄付	食品 30 個
ボランティア時間	50 時間
インパクト人数	300 人



工夫したことや達成したこと

毎回とても難しい問題をテーマにした映画だったが、小学生メンバーが自分たちなりにそれぞれの問題について考え、観る人がより理解を深められるように、映画の前にスライドを作ってあらすじを紹介した。また、事前に調べ学習やその問題解決に向け実際に取り組んでいる大人たちへの取材活動など多岐に渡る活動を行い、映画の世界をよりリアルに、そして自分ごととして捉える姿が見られた。



困難だったこと/次回に活かすこと

親子で社会問題について考えるきっかけを持ってほしいという願いを込めて始めた上映会だったが、どうしても自分には関係ない、我が子には難しすぎると敬遠されてしまうことが多かった。それでも、子どもたちがメッセージを発信していくことでコアなファンも増え、毎回を楽しみにしてくれる人もいた。



これからアクションを起こす人へメッセージ

この活動を通して痛感したことは、『一人の百歩より百人の一步』の大切さだった。世界の遠い国で起きている問題を自分ごととして捉えることは難しいことかもしれない。でも、色々な視点から調べてみるとそのような問題がどこかで自分と繋がっていることを実感できた。一人でも多くの人がこのことに気づき、新たな一步を踏み出し共に前へ進んで行けることを願っている。



チームシャル君



アクション実施者

- 人数 2
- 区分 中学生
- 活動地 東京都



取り組んだアクション

実施内容

私が開発した手洗いが楽しくなる手洗いロボット®シャル君を使って正しい手洗いとSDGsの大切さを伝えるワークショップを開催しました。世界には正しい手洗いができずに5歳の誕生日を迎えられない子ども達が約500万人いるといわれており、つまり6秒に一人の幼い命が失われています。しかし手洗いができれば約1000万人の命が救えます。ワークショップでは、この悲しい現実と、手洗いの大切さを伝えます。そして実際にシャル君と一緒に手洗いをしてもらい、給水設備設置のための「シャル君募金」も実施しました。これまで合計7回のワークショップを様々なところで実施し、その募金の全額を寄付しました。

- 社会課題 水と衛生の問題
- 支援先 (特非) コンフロントワールド
- 実施期間 2023年7月～現在
- 数値的成果

お金の寄付	57,300 円
モノの寄付	個
ボランティア時間	20 時間
インバクト人数	181 人



工夫したことや達成したこと

ワークショップで、私が伝えたい内容を参加者が飽きずに聞いてもらえる工夫をしました。クイズや動画を入れたり、実際にシャル君と一緒に手を洗ってもらったりと、魅力的なアクティビティを取り入れました。達成したことは、シャル君募金を集めたということです。実際に、集めた募金を支援先の代表に直接渡し、衛生支援のために使って頂きました。毎回、ワークショップ後にアンケートをとって感想をもらっています。そこで、「楽しかった」や「学べるがあった」などポジティブなコメントを多く頂いています。



困難だったこと/次回に活かすこと

困難だったことは、ワークショップで小さな子どもでもわかりやすい内容と言葉使いにすることです。中には、4歳の子ども達も参加していたので、世界の手洗い事情や衛生問題をわかりやすく伝えるのが難しかったです。しかし、できるだけ簡単な言葉で解説することや体験型にすることで伝えることができたと思います。次回に活かすことは、ワークショップの活動場所や頻度を増やすことです。手洗いの大切さと世界の手洗い事情を一人でも多くの子ども達に伝えていきたいです。



これからアクションを起こす人へメッセージ

最初は単に「自分でロボットを作りたい」という気持ちから始まりました。しかし、現在は「私も世界を変えることができるかもしれない!」という気持ちに変化し、一人でも多くの幼い命を救いたいという思いで、この活動を続けています。私の好きなことや興味があることから社会課題の解決へと繋がっていききました。どうしていいかわからないような苦しかったり悲しい現実と直面したりすることもあります。続けていれば必ず良い結果に繋がります! 子どもでも世界を変えることができます! Let's Take Action!!



アクション実施者

- 人数 7
- 区分 中学生
- 活動地 東京都



取り組んだアクション

実施内容

【超文化祭でのフェアトレード商品の販売】

売り上げが良かったということはできなかったが、どのようなブースで販売できるのか、どのようにしたらより多くの人に興味を持ってもらえるのかなど新しい発見や学びを得ることができた。

【超文化祭での団体やフェアトレード商品の紹介】

Free the childrenや商品に興味を持ってくれた方に対して自分たちなりに分かりやすく説明することができた。また、一部メンバーでステージに立ってスライドとともに魅力や自分たちがどのような思いでこのような活動をしているのかなども詳しくお話しさせていただいた。など

- 社会課題 フェアトレードの認知度の低さ
- 支援先 インドの教育機関・フィリピン
- 実施期間 2024年3月17日
- 数値的成果

お金の寄付	13,021 円
モノの寄付	個
ボランティア時間	56 時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

・アンバサダーとして、「超文化祭」という社会問題に興味のある若者が集まるとても貴重なこの機会にこの団体(=若者が主体となって活動する団体)のことを紹介するため、パンフレットを積極的に配ったこと。とっていく人にも声をかける、集まりがあるときに最後まで残り出口で配る、など。・この機会に団体やフェアトレードについてより多くの人に知ってもらうため、事前に紹介の練習や準備をしていたこと。



困難だったこと/次回に活かすこと

超文化祭に参加させてもらうのは今回が初めてでした。なのでわからないことも多く、目標の売り上げにたどり着けることもできませんでした。でも今回の経験を通して会場の雰囲気や、より多くの人に伝えたいことを伝える方法がわかったり、FTCJのメンバー以外にも社会問題に立ち向かう学生がたくさんいることを実感し、実際にどんな活動をしているのかわかりました。なので超文化祭でなくてもこれからイベント出店をさせてもらう際は今回学んだこと、感じたことを活かす＆参考にさせてもらいたいと思います。



これからアクションを起こす人へメッセージ

今回わたしはステージで団体やフェアトレードの紹介をさせてもらいました。普段のイベントなどで話させてもらうのは得意なので準備はあまり入念ではないまま、大丈夫だろうと思ってしまいました。でも、ステージの上になつと緊張してしまって言葉が詰まってしまったり、メンバーと一緒に練習する時間をあまりとれなかったことから、グダグダとしたスピーチになってしまいました。なのでステージ発表のある際は、これなら120%成功する！という自信がメンバー全員に出るまで話し合いながら入念に準備することをお勧めします！



みゆう



アクション実施者

- 人数 1
- 区分 中学生
- 活動地 東京都



おにぎりアクションを知っていますか?? 10/3
(木) ~ 11/16 (土) おにぎりの写真に
#OnigiriAction を付けてSNSや特設サイトに投稿
すると、協賛企業が寄付し、TABLE FOR TWOを
通じてアフリカ・アジアの子どもたち 🍌 に給食
5食が届く! 参加してみてね~
onigiri-action.com/download/Onigiri...
#OnigiriAction



取り組んだアクション

実施内容

学校の集会でおにぎりアクションについて初めて知り、とても良い活動だと感じた。また、ちょうどもう少しおにぎりの写真を募集する期間が近かったため、沢山のの人に知ってもらい、参加してもらうため、自分のXのアカウントでおにぎりアクションの内容や取り組み方を説明する投稿をした。私の投稿を見た人がおにぎりアクションを行い、少しでも多くの人がこの取り組みに参加して、アフリカやアジアの子ども達が給食を食べることができるようになった。

- 社会課題 貧困問題
- 支援先 アフリカやアジアの子どもたち
- 実施期間 2024年10月1日
- 数値的成果

お金の寄付	100 円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

内容を端的に分かりやすくまとめたこと。実際のホームページから文章を引用したり、画像のPDFのリンクを貼り付けて、情報の信ぴょう性を、高めたこと。インスタではなく、フォローしていなくても表示されるというXの利点を生かして、Xで投稿をしたこと。



困難だったこと/次回に活かすこと

なかなか、投稿にいいねがつかなかったり、見てもらえなかったりしたこと。Xの投稿では文章の量に制限があって、あまりたくさん書くことができなかったこと。今後、インスタの活動用の公開アカウントをつくり、日頃から投稿をしてある程度認知度を高めてからでないと、広める投稿をしても見る人が少ないのかなと思った。



これからアクションを起こす人へメッセージ

アクションの種類はたくさんありますが、その中から自分にできそうなものを見つけ、できることからアクションを起こしていくことが大切になるといいます。そうすることで、無理なく、続けやすいのかなと思います。きっと、他にもアクションを起こしている同世代の人が沢山いるので、自信をもって小さなことから挑戦していきましょう、



Free The Children Japan 熊本グループ



アクション実施者

- 人数 14
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 熊本県



取り組んだアクション

実施内容

私たちは「YOU are the Key ver.02」というイベントを企画し、児童労働や世界の貧困問題について同世代の中高生に知ってもらうことを目的に開催しました。香油作りやカードゲーム、紙芝居、プレゼンを通して、児童労働の実態や搾取の構造を体験的に学べるようにしました。参加者が一生懸命作り、完成してほっとしているときに実行委員が無言で作った香油を奪う演出が、「働いたのに報われない」という不条理を疑似体験できるものです。参加者がこれから自分にできることを見つけるきっかけとなる場を目指しました。

- 社会課題 貧困、児童労働

- 支援先

- 実施期間 2023年12月20日～2024年4月17日

- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	81 時間
インパクト人数	13 人



工夫したことや達成したこと

イベントでは、以前の反省を活かし、全員が積極的に関われる運営を心がけました。香油作りや紙芝居、意見共有の場などを通じて、楽しく深く学べる工夫を重ねました。その結果、児童労働や貧困について自分ごととして考える参加者が増え、「明日からフェアトレードのチョコを買う」といった声や、新たにFTCJ熊本に5人の仲間が加わるなどの成果が生まれました。小さなアクションの積み重ねが、確かな変化に繋がることを実感しました。



困難だったこと/次回に活かすこと

学校が異なるメンバーでのミーティング調整や、当日のスケジュール変更への対応が難しく、もっと事前に集まって確認や練習ができていたらスムーズだったと感じました。香油の作り方や進行の共有不足、準備物の確認不足なども課題でした。今後は柔軟な対応力を養うとともに、台本の暗記やイレギュラー時の対応も準備したいです。また、集客が難しかったことから、次回は中学校や小学校にも案内して、より多くの人に参加してもらえる工夫をしたいと思います。



これからアクションを起こす人へメッセージ

アクションを起こすことは難しそうに感じるかもしれませんが、身近なことから始めることができます。一緒に活動する仲間がいれば、お互いを支え合って大きな力になります。児童労働や世界の貧困は遠い問題に思えるかもしれませんが、私たちが日々買っている商品にも関わっています。フェアトレード商品を選ぶなど、小さな選択が世界を変える一歩になります。ボランティアを通じて新しい気づきや視野の広がりも得られるので、ぜひ一歩を踏み出してみてください！



参加者の感想

- ・ カードゲームや香油作りを通して、児童労働について楽しく学べて、自分なりに深く考えることができた。
- ・ 普段買っているものが児童労働と関係していると知って驚いたし、これからはフェアトレードの商品を選びたいと思った。
- ・ イベントでは、知らなかったことをたくさん知れたし、スタッフの人が優しく初対面の人も仲良くなれてよかった。
- ・ 「自分に何かできるんだ」って思えたし、小さなことからでも行動を起こすことが大事だと感じた。
- ・ まだ知らないことも多いから、もっと調べたり、またこういうイベントに参加して学び続けたいと思った。



ルチャ



アクション実施者

- 人数 1
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 静岡県



取り組んだアクション

実施内容

社会をもっとよくしたいという想いを持ってソーシャルアクションに取り組んだ子どもや若者が集う Change Makers Fes 2023にU25スピーカーとして1500人の前に登壇し、「子どもがソーシャルアクションを起こす時の壁となっているもの・アクションが当たり前、カッコいいことになるために必要なこと」についてスピーチを行い、子どもの権利を学んだ今の子ども達が大人になった時に、社会の担い手となって社会構造の中に多様性を浸透させる変革をもたらせた時、子ども達がアクションを起こす事を当たり前と捉える社会になると思うと伝え、ソーシャルアクションを広める啓発活動を行った。

- 社会課題 子どもの人権問題
- 支援先
- 実施期間 2023年 3月28日～2024年7月現在継続中
- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	30 時間
インパクト人数	1,500 人



工夫したことや達成したこと

子どもがソーシャルアクションを起こす時の壁となっているものは何か・ソーシャルアクションが当たり前かカッコいいことになるために必要なことは何かという問いを考える際に、まずは自分自身がソーシャルアクションを起こした時の事を振り返ることで、子どもとしてソーシャルアクションを起こした当事者として訴えかけることが出来ると考えた。



困難だったこと/次回に活かすこと

子どもがソーシャルアクションを起こす時の壁となっているものは何か・ソーシャルアクションが当たり前かカッコいいことになるために必要なことは何かという問いについて考える際にソーシャルアクションには様々な種類がある為それら全てにおいて言えることは何かを考えることが大変であった。またソーシャルアクションを起こすことを当たり前にする為に必要なことは何かという大きな問いについてイベントでスピーチする為の最終的な答えを出す事がとても難しかった。



これからアクションを起こす人へメッセージ

全ての子どもは子どもの権利を持っていて、子どもには「アクションを起こす権利」があります。子どもの権利を学び子どもにはアクションを起こす権利があると知った子ども達が前例となりアクションを起こしていくことによってみんなでアクションを起こすことを当たり前と捉える世の中になるように活動していきましょう。



ルチア



アクション実施者

- 人数 1
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 静岡県



取り組んだアクション

実 施 内 容

いじめ防止を啓発する目的で、いじめ防止啓発ステッカーといじめ防止啓発カードを一から全て自分で作成した。良い行いをしたという自覚があるように、悪い行いをしたという自覚もあるはずだ。誰かに見られていないからいじめをしてもいいではなく、その人自身が抑止力になることでいじめを防止するということを目的とし、カードには「You are seen by yourself. Your good actions and bad actions.」と記載し、ステッカーには自分自身を見通すという意味で目をデザインした。

■ 社会課題 人権問題

■ 支援先

■ 実施期間 2024年 3月1日～6月29日

■ 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	50 時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

学校内のいじめ防止を目的としてステッカーとメッセージカードを作成する際に、ただ作成するのではなくステッカーとメッセージカードにいじめ防止を啓発できるような意味を込められるようにするためにはどんなデザインが良いか、どんなフレーズが良いか試行錯誤した。



困難だったこと/次回に活かすこと

いじめ防止啓発活動をする際にどんな方法で行うのが人々の心に届くのか様々な方法を検討し、最終的にステッカーとメッセージカードを作成することに決めたが、その意味をステッカーとメッセージカードにどのように込めるか何度もデザインを変更し実際に形にすることがとても難しかった。



これからアクションを起こす人へメッセージ

全ての子どもは子どもの権利を持っていて、子どもには「アクションを起こす権利」があります。子どもの権利を学び子どもにはアクションを起こす権利があると知った子ども達が前例となりアクションを起こしていくことによってみんなでアクションを起こすことを当たり前と捉える世の中になるように活動していきましょう。



アクション実施者

- 人数 3
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 神奈川県



取り組んだアクション

実施内容

子どもの権利学習を子ども主体で進めていくため、パンフレットを作成しました。パンフレットには、学校や社会へのモヤモヤを載せました。もやもやをヒアリングすることを目的に、オンラインでイベントを企画しました。イベント当日は2名の中高生と3名の運営メンバーで学校内での人間関係や先生へのモヤモヤ、校則を変えた当事者である中学生中心に学校内でムーブメントを起こすための秘訣などを話し合いました。おとなや社会、現状へのマイナスな意見だけではなく、子どもとして解決に向けて何ができるのかを考えることができました。

■ 社会課題 子どもの権利の理解不足

■ 支援先

■ 実施期間 2024年2月1日～2025年3月30日

■ 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

子どもだけで運営している学生団体なので、おとなに頼ったり、対面での活動を行ったりすることができませんでした。オンラインやslackを活用し、それぞれが得意なことを生かしてイベント当日まで準備を重ねました。最終的にはいただいた意見をまとめて、パンフレットを完成させることができました。



困難だったこと/次回に活かすこと

やることを決めるのがギリギリになってしまい、直前まで準備が舞い合いませんでした。その結果、告知がギリギリになり、イベント参加者が少人数にとどまりました。また、対面での活動ができず、お互いを深く知り合うことができないまま、活動が終わってしまいました。



これからアクションを起こす人へメッセージ

チームづくり、雰囲気作りがモチベーションとチームワークに繋がります。オンラインでも良いので、交流する時間を意識的にとるとさらに大きなアクションに繋がっていくと思います。ぜひ、アクションから交流の輪を広げ、次の活動に繋げていってください。



みや



アクション実施者

- 人数 2
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 東京都

#脱プラ！



お菓子の個包装を環境にやさしい
紙に変えてください！！



取り組んだアクション

実施内容

夏のテイク・アクション・キャンプでメンバーと立ち上げた、プラスチックのごみ問題に関するオンライン署名をchange.orgの方の助言のもと、改善しました。海のプラスチックの大部分を占めるプラスチック包装の消費を減らしたいと思い、日本のお菓子の過剰包装に焦点を当てて、オンライン署名「森永のお菓子の包装を紙に変えてください！！！」を立ち上げました。しかし、あまり署名人数が集まらなかったため、change.orgの方とオンライン会議を行い、「もっと自分たちが高校生であることを強調した方が良い」など、アドバイスをいただきました。そこで、内容を改善し、署名を投稿しました。

■ 社会課題 ごみ問題

■ 支援先

■ 実施期間 2024年 5月1日～7月1日

■ 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

一番工夫したことは署名の文章です。深刻になりすぎず、最後まで読んでもらえるように、なるべくシンプルに文章を作ることを中心しました。また、ターゲットや署名の目的を絞り、私たちの伝えたいことが伝わるようにしました。自分たちが高校生であるということを利用して、よりインパクトのある署名が作れたと思います。



困難だったこと/次回に活かすこと

思っていたよりも署名人数が集まらず、困りました。そこで、他の署名人数が集まっている署名と比べてみると、私たちの署名は緊急性がないのではないかと感じたため、どうして今すぐにプラスチックごみを減らすことが必要なのかを詳しく書くことにしました。このように、アクションを起こすとき、多様な視点から繰り返し考えることが大切だと感じました。



これからアクションを起こす人へメッセージ

アクションを起こすとき、期待していたような反応がないこともたくさんあると思います。しかし、諦めずに改善を繰り返せば、きっと影響を与えることができるはずです。自分のアクションを客観的にみるため、周りの人からアドバイスをもらおうと良いと思います。



こころ



アクション実施者

- 人数 4
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 千葉県



取り組んだアクション

実施内容

約半年間の間3人の仲間と共に2024年11月9日、10日に開催された子どもの権利条約フォーラムの「子ども参加企画」の運営メンバーとして活動させていただきました。主な活動内容としては、企画内容をゼロから練り、準備期間中に会場に下見をしに行き、時間配分や物の配分、登壇者の募集など細かい企画内容の詰め、そして当日の運営を行いました。私たちの企画は「とどけ、わたしたちのリアル! ひろがれ、わたしたちのアクション!」というタイトルで行い、来場してくださっている大人などにリアルな子どもの声を届けようということを目指し、多様なバックグラウンドを持った小学生から大学生までの登壇者によるパネルディスカッションなどを行いました。

■ 社会課題 子どもの権利

■ 支援先

■ 実施期間 2024年 5月 26日～11月 9日

■ 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

このような大規模な企画の運営をゼロから行うという経験は初めてだったため、最初はなかなか想像がつかなくメンバーと企画を練る上で少し難しさを感じていたのですが、準備期間中に実際に会場である立教大学のホールに下見に行くことができ、それ以降はだんだん考えやすくなりました。下見に行ったことで場所の配置や、募集する登壇者の人数、私たち運営メンバーの軌道などもより明確に確認することができ、より当日の想像が着くようになりました。



困難だったこと/次回に活かすこと

たった4人のメンバー間でもお互いのスケジュールが中々合わなく、オンラインのミーティングでも全員が揃うことが難しかったり、フォーラム当日までオフラインで実際に全員が揃ったことがなく、どうしても仲を深めるにも限界がありました。しかし、全員が共通の目標である子どもの声を大人に届けるという目標に向けて、各々の時間で各自の役目を果たすことができていたため、最終的にはしっかり大人の方々に私たち子どもの声を届けることができ成功させることができました。



これからアクションを起こす人へメッセージ

アクションを起こすにあたって、仲間と一緒に活動をする人が多いかと思います。どれだけ仲良くやっても、全員違う考え方で違う意見を持っているので、ぶつかってしまうことも当然あるかと思います。でも、そこで諦めて終わりには絶対にしないでほしいです。それを乗り越え、全員が同じ目標に向かっていくチームは必ず最後には良い結果を出せるからです。一緒に頑張りましょう。



アクション実施者

- 人数 3
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 茨城県



取り組んだアクション

実施内容

世界の貧困や児童労働問題などにもっと興味・関心を持ってもらい、何かアクションをを起こしてもらいたいという思いから、学校の文化祭でフェアトレード商品の販売を行いました。商品の説明ポップを全て手作りし、実際にフェアトレード商品を手にとった方に、その商品が作られた背景について知ってもらうことができました。

- 社会課題 貧困、児童労働など
- 支援先
- 実施期間 2024年 6月 8日
- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

商品説明のポップやチラシは全て自分たちで手作りをして、商品の背景にあること、商品を購入することで、どのような支援に繋がるのかを知ってもらいました。イラストなどを工夫して、大人たちだけでなく、同級生や小さな子たちにも見てもらえるようにしました。



困難だったこと/次回に活かすこと

今回は部活動（国際協力・支援部）の一環としてフェアトレード商品販売を行いました。しかし、もともと部員の人数が少ないので、準備や文化祭当日の店番が大変でした。今後は、国際支援の重要性を伝えて、このような活動に参加してくれる仲間をもっと増やしていこうと思います。



これからアクションを起こす人へメッセージ

私達は、世界の貧困などの問題に興味があり、何かしたいという思いから、今回、文化祭でのフェアトレード商品販売を行いました。まだ一緒に活動してくれる仲間が少なく、大変なことも多いですが、これからも色々な企画を考えて、仲間を増やしていこうと思っています。同じ気持ちを持った人たちがもっと増えていった欲しいと思っています。一緒に頑張りましょう！



Aiko



アクション実施者

- 人数 1
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 静岡県



取り組んだアクション

実施内容

シティズンシップ教育と平和教育についてのワークショップを行いました。オンラインで2回中高生を対象に行い計14名が参加してくださいました。また民間学童と連携して小学生27名を対象に対面で開催しました。「平和」について考えを深め、シティズンシップ教育の特徴である「社会の一員としての能力」を高めるために、受動的な学びだけではなく主体的な学びを目指してワークショップを開催しました。

- 社会課題 教育、平和
- 支援先
- 実施期間 2024年7月26日～7月30日
- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	41人



工夫したことや達成したこと

まずオンライン開催のワークショップは全員が少なくとも2回発言をするようにしたことで意見交換が円滑にできました。小学生は世界の様々な問題について写真を見て原因やその背景を考えるとという活動を行い、全員が輪になって行ったため活発に意見が出ました。またどちらもアイスブレイクタイムを用意したことで雰囲気が和み、正解のない「平和とは」という問いに対して柔軟に話し合うことができました。オンラインという特性を活かし、日本全国、またニュージーランドからも参加者がいました。



困難だったこと/次回に活かすこと

小学生のワークショップは年齢差もあり思考段階に差があったように思います。また個人で考えるワークシートはできても人前で発言することに抵抗を感じる子どもが多いと分かりました。またオンライン開催のワークショップはオンラインであるが故に1人目の人の意見に偏ってしまう傾向があると感じられました。またオンラインで開催する機会があったら初めに発言した人に流されない構成で進めたいと思います。



これからアクションを起こす人へメッセージ

自分が少しでも興味のあることは積極的に行動を起こしてみてください！自分が想像している以上に多くの人が賛同してくれると思います！またアクションを起こすことで自分の知識を深め行動力を高めるきっかけになります！不安に思うかもしれませんが勇気を出して一歩踏み出してみてください！



Hopehaven



アクション実施者

- 人数 6
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 東京都



取り組んだアクション

実施内容

カナダで同じ学校に通っていた6人で学生団体 Hopehavenを立ち上げ毎週のミーティングを実施し、約半年間にわたって活動してきた。私たちは、貧困地域に住む子どもたちがより良い生活を支援するチャイルドスポンサーシップの考えに共鳴し主に学校や地域のコミュニティーへに対して啓発活動、資金調達の二つを行った。また、日本に帰国後FTCJのボランティアイベントに参加して子どもメンバーと活動をシェアすることができた。

- 社会課題 啓発活動、資金調達

- 支援先

- 実施期間 2024年4月24日～8月2日

- 数値的成果

お金の寄付	18,150 円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

イベントを開催する際には、事前にチラシを発行したり校内方法で呼びかけを行ったりより多くの人が参加できるように心がけた。また、一方的に寄付という形ではなく、“寄付付き〇〇”のように参加してくれた人がもっと幸せな気持ちになれるように特典をつけるなどして工夫した。



困難だったこと/次回に活かすこと

団体メンバーの数が6人とそれほど多くなかったため、一人の負担が大きくなってしまったこと。また、イベント当日にうまくコンタクトが取れないことがあったが最終的に目標を達成することができてよかった。また、私たちの活動に地域の方々や学校が場所や時間を提供してくれたのでとても嬉しかった。



これからアクションを起こす人へメッセージ

アクションを起こす時は、一つのアイデアに縛られずに一度沢山の意見を出してから絞っていくとトラブルがあった場合に代案をすぐにメンバー間でシェアできるので良いと思う。小さなアクションでも、しっかりと目的意識を持って積み重ねることで団体としてモチベーションを維持できることが重要であった。



アクション実施者

- 人数 5
- 区分 大学生/大学院生
- 活動地 京都府



取り組んだアクション

実施内容

フェアトレードを取り扱われているシサム工房さんから商品を買取り、学内で販売しました。少しでも多くの人の生活にフェアトレードを取り入れてもらうことを目標に行いました。これからの未来を担う私たち学生が、何を知るべきか・何をすべきかについて、同じ目線からフェアトレードを通して問いかけ、1人では小さいこともみんなであれば大きくなるんだということを学びました。

- 社会課題 貧困

- 支援先

- 実施期間 2024年10月21日～10月25日

- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	175 時間
インパクト人数	150 人



工夫したことや達成したこと

フェアトレードについて知っている人、名前だけ聞いたことがある人、知らなかった人、それぞれ多くの方に出会うことができました。中には、「フェアトレードを知らなかったけど、生活に取り入れたい」「自分もこんな活動したい」と関心を持ってくれた学生もいました。



困難だったこと/次回に活かすこと

困難だったことは、大勢の人に何かを伝えること、そして売ることです。立ち止まってくれる人もいる反面、チラ見してスルーする人、声をかけても振り向いてくれない人もいました。ターゲットを絞り、身近なものと結びつけて新しい方向から発信することが次回の目標です。



これからアクションを起こす人へメッセージ

アクションを起こすことは、小さなことも大きなことでも全て、自分の新しいスキルとなって返ってきます！ですが、どうせやるなら、しっかりと準備をして挑むことが目標達成に大きく繋がるキーポイントだと思います！応援しています！



NPO法人MIS タイ・ミャンマー国境チーム



アクション実施者

- 人数 11
- 区分 大学生/大学院生
- 活動地 東京都



取り組んだアクション

実施内容

まず私たちは8月に5日間タイ・ミャンマー国境の街
メーソートに滞在し、ミャンマーからの避難民生徒合
計約100名を対象に「サマースクール」イベントを開
催しました。「メーソートと日本をつなげる」という
理念のもと、生徒とユニークかつ学びの面白さを伝え
る教育や異文化交流体験を作り出すために、本イベン
トを主催・実行しました。また、11月に国際協力に関
心のある高校生～大学二年生のユースを対象に、避難
民問題について発信するとともに、学生の国際協力の
課題をどのように乗り越えていけるかに関するアイデ
アを議論するワークショップイベントを開催しまし
た。

- 社会課題 避難民の子ども達が脆弱な法的ステータスや政治/経済的な状況により、十分な質の高い教育を受けられず外部との交流機会が少ない問題。難民に関する社会的関心の低さ。

- 支援先 New Blood School, Community Development Centre, Min Ma Haw Education Programme (メーソートの移民学校)

- 実施期間 2024年8月17日～11月17日

- 数値的成果

インパクト人数 130 人



工夫したことや達成したこと

8月のサマースクールプロジェクトでは、ペットボトルロケットや布染め実験など生徒が楽しめながら科学について学ぶ企画や、年齢層が上の生徒には課題解決アイデア企画を行い、それぞれのレベルや年齢に応じて学びと異文化交流の楽しさを実感できるよう工夫した結果、生徒や先生の満足度は非常に高いものとなりました。また、日本でのワークショップではタイ・ミャンマー避難民の障壁をボードゲームで表し、参加者が体験を通して当事者意識をもって学ぶことができるように工夫を施した企画を設けました。参加者からは新たに難民問題に関心をもったという声を寄せていただきました。



困難だったこと/次回に活かすこと

企画実施のための材料の準備や参加者、現地学校の先生方との調整は大変でしたが、11人のチームメンバーで役割を分担しながら進めることができました。しかし、活動をどのように持続可能にしていけるか、現地に長期的なインパクトを残していくのかという課題は残ります。すぐに答えを出すことは困難ですが、チーム一丸となり、今後ますます発展していくことができるようにアイデアや工夫を寄せ合っていきたいと思っています。



これからアクションを起こす人へメッセージ

チームでソーシャルアクションを起こすことは、チーム内の意見が食い違ったり方向性を見失ったりする場合があるかもしれません。ただチームだからこそ、インパクトやスケールの大きい企画ができることも確かです。みんなで意見を出し合い、試行錯誤を繰り返して、最高のアクションにつながる一歩を踏み出していきましょう！ユースのソーシャルアクションの輪がこれからも広がり続けることを願います。



アクション実施者

- 人数 6
- 区分 大学生/大学院生
- 活動地 熊本県



取り組んだアクション

実施内容

ユースに向けたフェアトレードや社会問題への理解を高め、今後どう生きるか協同してアクションをしていくかを考えていく場を作った。具体的には、午前中は映画トゥルーコストの試写会をした。そこでは、映画について振り返る時間と意見を共有する場も設け、理解や共感をできる限り深め今後のアクションのきっかけを作るよう努めた。午後は、鈴木さんに講演・ワークを用意していただき、さらに実際これからどうアクションするかを考える時間を設けた。

- 社会課題 フェアトレードの認知度の低さ
- 支援先
- 実施期間 2024年 8月4日
- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

まずは、多年代の方が参加することというイベントもあり心の壁ができぬことを心配した。そこで安心の場作り・アイスブレイクを丁寧に行い、またワークをすることでお互いの理解を深めることができた。午前午後を通して、フェアトレードの必要性・重要性は大きく伝わったと感じる。



困難だったこと/次回に活かすこと

タイムテーブルや当日の動きを、フェアトレードシティくまもと推進委員会のメンバーと打ち合わせする時間を多く取ることができなかった。そのためイベント直前まで、自分、講師、メンバー間で擦り合わせて完成させる必要が生まれてしまったのは反省点になります。



これからアクションを起こす人へメッセージ

アクションを起こすことにエネルギーを使います。そのエネルギーを使うことを前向きに捉えられると難しさは減ると思います。やりたいこと・伝えたいこと・ワクワクを詰め込んで、自分自身アクションを楽しめる状態にしたらくさんのエネルギーに溢れたいアクションが生まれると思います。



アクション実施者

- 人数 50
- 区分 小学生～高校生
- 活動地 静岡県



取り組んだアクション

実施内容

一番興味のある社会問題ごと（貧困、海洋プラスチック、環境問題、差別人権、ジェンダー、戦争紛争、食品ロス）のグループに分かれ、これらの社会課題についてのワークショッ
プを作成した。

- 社会課題 貧困、海洋プラスチック、環境問題、差別人権、ジェンダー、戦争紛争、食品ロス
- 実施期間 2024年8月1日～8月7日
- 数値的成果

ボランティア時間 100 時間



工夫したことや達成したこと

- ・クイズ形式にして、日常に潜む差別用語からジェンダー問題を身近に感じてもらえる工夫をした。
- ・差別をテーマに、実際の歴史や事例を調べてリアルな劇を作り、観客の共感を得られた。
- ・パワボを活用し、スライドとクイズで飽きさせずに伝えるなど、伝え方を工夫した。
- ・不平等な椅子取りゲームなど、体験型で楽しく社会課題を考えられる場をつくった。
- ・年齢の違うメンバーとも対話しやすくなるよう、場を仕切り全員の意見を引き出した。
- ・分担作業と声かけでチームの連携を図り、準備から発表までスムーズに進められた。
- ・海洋プラスチックでエコバックを作り、その売上を募金に活用する取り組みを実施。
- ・現地での発表に向けて、事前に何度も内容を改善し、参加者に伝わる形に仕上げた。



困難だったこと/次回に活かすこと

- ・準備や練習が足りなかったもので、次回は余裕を持って計画したいです。
- ・クイズや劇の内容づくりに時間がかかったため、早めにリハーサルをして完成度を高めたい。
- ・意見をまとめるのが難しかったので、次は進行役として整理を工夫したい。
- ・相手の心に響く伝え方をもっと考え、内容に感情が動く工夫を加えたい。
- ・予定よりリサーチに時間を使ってしまったので、優先順位を意識したいです。
- ・会話やチーム作業への緊張があったが、次はもっと積極的に関わりたい。
- ・理想と現実のギャップを感じたので、実現可能なアクションを考えたい。



これからアクションを起こす人へメッセージ

- ・茨の道でも道があるなら歩き続けて。諦めずに頑張れ！
- ・子どもも大人もアクションは可能。自分を信じてアクションを起こしましょう！きっと身近なところにアクションを起こすために手伝ってくれる人がいると思います！なので、1番は身近な人に自分のアクションの事を説明して手伝ってくれるか聞いてみましょう！！
- ・アクションを起こすには忍耐力が必要。あきらめずに自分のその目標に向かって頑張れ！
- ・小さな一歩も大きな変化に繋がる！アクションを起こすことがまず素晴らしいことです。ぜひ頑張ってください。
- ・失敗しても、次に活かせばいいし、失敗することは恥ずかしいことじゃない！どんどん挑戦していいと思う！
- ・どのようにするかを最初に決めてからやるとやりやすいと思います！
- ・最初は不安しいかなと思います。失敗したらどうしよう。誰も来てくれなかったらどうしよう。協力してくれなかったらどうしよう。誰のためにもならなかったらどうしよう。でも、大丈夫です。FTCJをはじめ、アクションを協力してくれる人・団体はたくさんあるし、アクションを起こして誰も助けられないことはありません。何より、誰かのために何かをしたい、という自分の素直な気持ちに向き合い、実行することで自分の自信にもつながります。あなたのアクション、とっても応援しています。一緒に頑張りましょう！

小学生



- ・歌が好きで、歌で街を活気付けられるようにライブ活動をしています。



- ・リサイクルのポスターを作成し、分別・リサイクルについて発表した。



- ・学校で、緑と清流を未来に残すために、ポスターや俳句、作文を発表して自分たちのできることを考えています。



- ・2024年9月に住んでいる市のバイリンガルスピーチコンテストで、以下メッセージを伝えたく、コンテストに出場いたしました。ハーフというだけで外国人に間違えられたり、英語が話せるなど外見だけで決めつけられることが多いです。僕は幼少時から世の中には世界には様々な人種がいるので、皆共存することを教育されてきています。僕が伝えたいのは外見で判断するのではなく、それぞれの個性を受け入れてほしいです。なお、コンテストの自由スピーチ部門で、大賞を受賞いたしました。



- ・地域のイベントでSDGsをテーマとしたパフォーマンスをしました。本番に向けてお友達と意見を言い合いながら未来に向けて今自分たちに何ができるかを考え、本番当日大勢の人たちの前で発表しました。
- ・東京都ドームミーツポートにてチェンジメーカーフェス2024にバックダンサーとして出演し、ソーシャルアクションを起こす雰囲気を応援しました。

中学生



- ・中学校文化祭でSDGs課題対策についての探究発表（貧困、フェアトレード）



- ・おにぎりの写真をとって「おにぎりアクション」のサイトに投稿をした。1つ写真を投稿すると、協賛企業が寄付をしてくれて、アフリカ・アジアの子どもたちの給食5食分になるというもの。



- ・フェアトレードをもっと多くの人に知ってもらうため、インドの子どものためにフェアトレードチョコの販売（企画）をした。



- ・テアトルSDGsのフェスにダンサーとして参加させていただき、その際に、自分なりに食品ロスの工夫やリサイクルの活用を学び、実際に続けていました。



- ・学校の課外活動でSDGsについて学び、海の環境についてポスターを書いて発表した。
- ・海洋プラスチックのゴミ拾いを体験するワークショップを作って、同年代の人たちに体験してもらった。



- ・2024年のテイクアクションキャンプに参加して、アクションを起こすための具体的な計画を立てた。その中で差別がどうしたら減らせるのかを考え、『SNSなどで世界中の人に森での音楽祭に参加したい人を募集し、たくさんの国や地域の伝統楽器を持参してもらう。キャンプファイヤーをしながら、音楽の力で世界中の人が交流を深めて仲良くなってほしい。』というアクションを発表した。



- ・学校の課外授業でSDGsについて勉強し、班ごとで様々なテーマについてどんな課題が起きているのかをまとめ、発表を行った。個人で作文を書いた。



- ・児童労働や教育格差社会の問題解決に向けて、フェアトレードチョコレートの商品を企画・販売した。
- ・フィリピンスタディーツアーに参加し、経験をブログで発信した



- ・少しでも多くの子どもたちが「心肺蘇生」について学ぶことのできる機会を増やし、もしもの時に冷静に動くことのできる人を増やすために、文部科学省および総務省消防庁と意見交換を行っています。また、イベント出展や主催イベントにて、心肺蘇生を体験していただけるブースを多く出展しています。



- ・オーストラリアの同世代の人々に日本の文化を共に学び好きになり興味を持ってもらうため、保護施設が整っている動物園に行き自然を感じコアラについて話を聞いた
- ・教育に関して、学生代表の意見として講演会でスピーチをおこなった。世界から学生を何人か集め、zoomで世界の様々な問題についてディスカッションを行った。
- ・現代の小学生がどのような教育を受け、どのような問題を抱えているのか知り、サポートするために小学校の学童に訪問した。その際、英語に日常的に触れる機会が少ないと知ったので、彼らに英語を使う楽しさを知ってもらうために友達13名と英語を使ったハロウィンやイースターのイベントを実施した。
- ・子どもの権利を子どもから子どもへ広げるために、地元の仲間と団体を立ち上げました。今は、イベントに出展する準備をしています。
- ・部活動の地域移行を広めるために部活動の地域移行についての教育シンポジウムに登壇させていただきました。今は、子どもの権利を広めるために子どもの権利条約フォーラム運営メンバーをしています。



- ・LGBTの理解を深めるために学校で多様性についての発表をした。
- ・SNSでLGBTQを題材としたドラマの情報を発信して広める活動をした。



- ・高校の部活動で、私たちが日々生活する地域の活性化を目的としたイベントを開催した。私たち高校生が、地域のお子様と共に遊びながら、防災について学べる企画を用意し、地域交流の輪を広げると共に、防災教育も行うことが出来た。



- ・大量生産・大量消費の世の中でどうしたらサステナブルな社会を広めていけるかを考え、企業さんにプレゼンをさせてもらった。
- ・フードロスを解決するために、地域のコミュニティを大切にしているカフェで、オレンジの皮を用いたパウンドケーキを作成、提供した。普段から料理をしている主婦の方を対象に、過食部を捨てないで活用する方法を知ってもらう、また、フードロス問題を意識してもらうためにプロジェクトの企画、実施を行った。



- ・環境問題を改善するために現状を多くの人に知ってもらえるために、魚やサンゴ礁が現時点でどれぐらい減少したのか、そしていつまでに絶滅すると予想されているのかをまとめてインスタグラムで情報発信をした。



- ・私は舞踊を14年間しており、何度か舞台も立っています。2023年4月に両国では、社会情勢や戦争にイメージがつかない人や舞踊が好きな人のために社会を脅かすウイルスや戦争を風刺した踊りをして現代社会における問題を伝えるために舞台に立ちました。実際にイタリアやアメリカから来た人に見に来ていただき意見交換をさせてもらい最終的には平和な世の中になるといいと語り合いました。
- ・世界が一日でも早く平和になってほしいと感じ広島に行った。広島に来ている人に平和についてインタビューし、地域の人や学校で平和に着いて伝えた。世界の課題について、みんなに知ってほしいと感じ世界の記念日に地元の駅で挨拶運動を行った。今年で五年間続けることが出来た。
- ・世界の平和のためにどうしたら争いが無くなるのか、もっと平和を広げていくにはどうしたらいいのか考え、Googleスライドにまとめて学校の授業内で発表しました。
- ・地域住民の多文化共生への意識を高めるため、ヒジャブやハラールなどの文化体験イベントを開催した。
- ・国際交流関係のイベントの開催
- ・入管に収容されている方々のために、少しでも多くの人に日本で起きている入館問題について知ってもらうために、BONDの国際支部に参加し、スライドやポスターを作って文化祭のときに展示した。



- ・フィリピンのスラム街に住む子どもたちにひとりで会いに行き、(19歳女子) 現状をこの目で確認した上でインスタグラムで情報発信と現地の子どもの文化交流をした。



- ・キッズデザインSDGsアイデアソンという活動に参加し、企業の方とともに子供の未来についてのデザインを考えました。チームごとに分かれるのですが、私たちのチームではヤングケアラーの方達の居場所を作りたいと考え、デザインを考えました。



- ・女性の日頃の思いを歌にして、シンガーソングライターとして広める活動をしている。
- ・身の回りにいる悩みを抱えている人のために、カミングアウトをする意味についてゼミでディスカッションをした。



- ・学生団体を立ち上げてフェアトレードの普及活動を行った。



- ・海外に興味のある方に対して多くの文化を知ってもらうため、また来日した人に対して日本の文化を知ってもらうため、海外の友人と国際交流会のイベントを月1度のペースで主催しています。あらゆる国の文化や言語を超えて交流をして、楽しさをメインにさまざまな国の問題や現状も知りつつ、広い考え方や国際的な人を多く輩出するのが目的です。
- ・世界子どもの日にチャリティーウォークに参加し、世界の人権問題を知り、またそれを発信した。
- ・高校の団円でフェアトレード普及のためにフェアトレードカフェを開いた。
- ・フェアトレードについての認知拡大と意見交換のために、フェアトレードカフェとワークショップを開催した。



- ・宮城県の少子高齢化の現状を知ってもらうために大学の授業でプレゼンテーションを行った。
- ・地元のゴミの量が県の中でも多く分別もあまりされてないため、地域のゴミ分別化のために駅に透明のゴミ箱を設置した。しっかりゴミを分別できるよう色ごとに分け透明の入れ物で見える化ゴミ箱を作った。



- ・カフェのバイトにおいて、食品廃棄物の多くを占める抽出後のコーヒー豆かすを捨てるのではなく、リサイクルして肥料や牛のえさとなり、そこで育てられた植物や牛のミルクを使ってドリンクを使っていくサイクルをまとめることで、豆かすをリサイクルすることの大切さを伝えました。
- ・学習メンターとして働いているアルバイト先の高校で、普段大学で学んでいることをテーマに授業をする機会があり、私は「SDGsなもののづくり」というテーマでアップサイクルを取り上げて50分間の授業を行いました。高校1年生の約30名に、SDGsやアップサイクルについて説明し、商品を考えてもらうグループワークを行うことで、楽しみながら知識や理解を深め、興味関心をもってもらうことができました。



- ・環境問題に興味があるのですが、環境問題に興味がある中高生が繋がる場所が少ないことが課題だと思い、現在コミュニティ作りに取り組んでいます。実際に中高生にインタビューを行って、学生団体のようにコミットが求められたり、入るハードルが高い団体ではなく、緩く繋がる団体がほしい・一緒にイベントに参加したり、人目を気にせず環境問題について話せる環境が欲しい、という意見もいただきました。大人のコミュニティを作ったことのある人などにもインタビューを行なっていっています。また、大学入学後、compostやフェアトレードのサークルやSDGs推進室にも入り、地域のコンポスト団体や滝沢ごみクラブさんとのイベントを12月に開催予定で進めています。



- ・広島、長崎に原子爆弾が落とされた日、終戦の日に関連する記事や投稿を拡散したり、読んでいる。
- ・私が行ったソーシャルアクションは、拉致問題啓発舞台劇公演に出演したことです。横田めぐみさんをはじめ、日本から沢山の人が拉致されているという事実があり、それを1人でも多くの方に知ってもらいたいという想いから出演しました。拉致被害者の方々が1日でも早く日本に帰って来れるように、これからも沢山広めていきたいと思っています。※今年も日本各地で舞台公演があります。
- ・インカレを設立して、東南アジアからの留学生にその国の文化や問題点などをかねたスタディーセッションを開いた。
- ・長崎県の中小学生に子どもの権利や子どもと戦争をテーマのワークショップを行い、展示の案内人をした。
- ・吹奏楽部でピンクシャツdayといういじめ反対のイベントに参加した。
- ・東日本大震災で被災し7カ所も転々となりました。その時の伝承活動を出来る限り続けています。学校の舞台で演じたり、また生徒会会長として世の中に発信していきました。震災当時、台湾の女の子からいただいたハガキに励まされ、そして今度は自分がウクライナの戦争で被災された高校生に、お手紙を渡したいと思うようになり[福島からウクライナへ手紙でつなぐ笑顔]というプロジェクトを立ち上げました。被災した経験もある事からウクライナの子供たちの気持ちに寄り添うことで、遠く離れていても、みんな繋がってるよ、そして手紙によって人を救うことができる。誰かの勇気になるという願いの夢が実現されテレビで特集を組まれました。芸能界へ入ったきっかけも東日本大震災です。メディアの発信力が大きな力になるということを目の当たりにし、自分も有名になってメディアで発信することにより、今苦しんでいる人々に勇気や希望を与えたいと思ったからです。



- ・学校で持続可能な社会についてディスカッションを主導し、同世代の仲間たちに環境保護や社会貢献の重要性を伝える機会を設けました。小さな行動でも、持続可能な未来に向けた一歩だと信じています。
- ・フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの出前授業でスピーカーとして私自身がこれまで行ってきたソーシャルアクションをシェアした。テイク・アクション・キャンプ2023で社会問題に関心がある参加者と一緒に社会問題について考えたりアクションを行ったりした。芦屋市の子ども集めるワークショップの企画に関わり司会を行った。全国3ヶ所で子どもの声を集めるワークショップを同時開催し、普段このような機会がなかなかない地域の関西に会場を設け、声を聞いた。
- ・国際協力や多文化理解に関するイベントを開催し、地域の方々が世界に触れ、考える機会を作った。
- ・SDGsを題材としてSDGsが私たちにどう関係しているか日常との繋がりを考える授業を行ってきた。

その他



- ・ガールスカウト東京SDGsフェスティバル
2024年3月20日に、来場者1,307名を迎えて開催。ガールスカウトだけでなく、会員外のお子様～大人の方々を対象にSDGsとは何か？を知り、日々の生活を見直し、今起きていることを自分ごととして捉えて行動する機会とするために実施。目標1～17すべてを学べるように、会員が考えたクイズラリーやプログラム体験、活動紹介ブースの他、イベント趣旨に賛同いただいた企業・団体からも協力を得てブースを設置。スタンプラリーをしながら各ブースをめぐり、親子でSDGs学習体験ができる参加型のイベント。
(団体報告：一般社団法人ガールスカウト東京都連盟、52名)

その他



たび（駅前学園祭実行委員会）



アクション実施者

- 人数 19
- 区分 高校生/高専生
- 活動地 静岡県

通称：駅前学園祭

目次

御殿場駅前学園祭 企画書	1
企画名：御殿場駅前学園祭	1
駅前学園祭とは？	1
コンセプト	2
目的	2
イベント概要	2
主な企画内容	3
出店・模擬店一覧	3
● ステージ企画	5
ステージ企画表（仮）	
テーマ：「若者の楽しいを表現！」	5



取り組んだアクション

実施内容

御殿場市の活性化と高校生のまちづくり参加推進のため、御殿場駅前学園祭という企画を立ち上げました。静岡県御殿場市の高校生約20人で運営される、駅前共同文化祭イベントです。また、その中でタイのスラム街で作られたフェアトレード商品の販売を行うなど、様々な社会問題に貢献できるイベントにできるよう運営を行っています。

- 社会課題 教育格差、過疎化、子どもの権利
- 支援先 シーカーアジア財団
- 実施期間 2024年10月15日～2025年7月30日
- 数値的成果

お金の寄付	円
モノの寄付	個
ボランティア時間	570 時間
インパクト人数	人



工夫したことや達成したこと

まだ途中経過にはなりますが、達成したことはこのイベントを実現段階まで持ってきたことです。市などのサポートを得てから、各学校に協力をお願いしました。全く縁のなかった高校もあり苦戦しましたが、何とかメンバーを集めることができ、そこから企画実現につなげていきました。メンバー同士の意見や考えの違いもあり、リーダーシップをとるのにとても苦戦しました。



困難だったこと/次回に活かすこと

学生の間においてのリーダーシップや自身の部活動等との両立が最も難しい点でした。御殿場市において前例のない取り組みだということもあり、自分が何を、いつ、どこですればいいかがよく分かっておらず、今振り返ると後悔してしまうような選択も多くありました。



これからアクションを起こす人へメッセージ

まずは「やってみたい！」という気持ちからスタート。興味を持ったことに目を向けて、「やってみたいこと」を見つけることが第一歩です。そこから、実現に必要な人やリソースをつないでいきましょう。一人で全部やろうとすると大変なので、一緒に動ける仲間を見つけることが大切。そうすれば自然と実現できます！

高校生



- ・「高校生の仲間とミュージカルを作りたい」そんな思いで繋がり、集まった高校生たちで、地域との関わりを大切にしながら、完全オリジナル脚本のミュージカルを上演しました。地域に元気を与えたい、高校生の思いを届けたい、総合芸術を通して地域の繋がりを生み出したいという思いで、ミュージカル制作の過程では、行政、団体、企業など地元で活躍する方々と関わり、手を取り合ってきました。この活動で、芸術を通じて地域を元気にすることが出来たと思います。関わってくれた皆様からたくさんのことを学び、成長することが出来たと同時に、私たちのミュージカルで皆様に元気や勇気や希望を届けることが出来ました！

ユース



- ・私が行ったソーシャルアクションの一つは、リサイクルやリユースの活動を通じて、発展途上国でリサイクルされた衣服を販売する取り組みです。この活動は、特にファストファッションの過剰消費によって生じる環境負荷を軽減しつつ、発展途上国における経済的な支援も目的として行いました。

「誰のため」に行ったか

この活動は、2つの対象に対して行われました。まずは、発展途上国の人々です。リサイクルされた衣服を手頃な価格で提供することで、現地の経済的負担を軽減し、手に入れやすい衣料品を提供することができました。また、リサイクルやリユースのプロセスを通じて、現地での雇用創出や地元経済の活性化にも寄与することができました。次に、地球環境のためです。ファストファッションによる廃棄物の増加は、地球規模の環境問題となっています。この活動を通じて、不要となった衣服を再利用し、廃棄物を減らすことに貢献しました。

「何のため」に行ったか

この活動の目的は、環境問題の解決と発展途上国の経済的自立支援の二つです。まず、リサイクルされた衣服を再び市場に流通させることで、廃棄される衣服の量を減らし、環境への負荷を軽減することを目指しました。ファッション業界は環境への影響が大きく、特に衣服の生産と廃棄はCO2排出量や水資源の浪費につながっています。この問題に対処するために、リサイクルやリユースを通じて持続可能な消費を促進しました。また、発展途上国の人々に対して、質の良いリサイクル衣料を低価格で提供することで、生活の質を向上させ、同時に現地の経済をサポートすることも目指しました。

この取り組みを通じて、衣服が必要な場所でも有効に活用され、廃棄物となることを防ぎました。この活動は、環境への配慮とともに、社会的な不平等に取り組むものでした。持続可能なリサイクルビジネスモデルを通じて、発展途上国の人々に新たな機会を提供し、より良い未来を築くための一歩を共に進めた経験です。

はじめてみよう、あなたにできること

アクションキット

アクションを起こすヒントがつまったキットを活用して世界に変化を起こそう！

**社会問題を解決するためにアクションを起こしたい！
でも何からはじめよう？ アクションプランをゼロから自分で
考えるのは自信ないな・・・と悩んでいませんか？**

FTCJでは、何かしてみたいけどどうしたらよいか分からない、という皆さんのために、
すぐにアクションを起こせるよう、様々なアクションキットを用意しています。

ソーシャルアクションレポートに掲載されたみんなの活動も、
第一歩はここから始まったものもたくさん！
無料のキットを利用して、みんなで力を合わせて世界に変化を起こしていこう！
アクションキットは、ウェブサイトから無料でダウンロードできます。



Take Action

Powered by フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

ウェブサイト

<https://ftcj.org/takeaction/>

Take Actionは、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン（FTCJ）が運営する
10代からのソーシャルアクションのためのサポートプログラムです。
このサイトには、あなたのためのアクションへのヒントが、たくさん詰まっています。



ソーシャルアクションレポート 2024-2025 (2025年6月30日発行)



認定NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5-3F MAIL info@ftcj.org TEL 03-6321-8948